三　「「ビルマ」「フィリピン」関係」

昭和二十一年二月

外交資料

「ビルマ」「フィリピン」關係

外務省編纂

序　文

我國ハ今次戰爭ニ於テ未曾有ノ破局ヲ見タルカ事茲ニ至リシ經緯ヲ知ラントセハ滿洲事變ニ始マル茲十數年ノ歷史的事實ニ遡ラサルヲ得ス。外務省トシテハ此際此ノ歷史的事實ヲ外交交涉ノ經過ノ面ヨリ正確ニ記錄シ、過去ノ外交ノ眞實ノ姿ヲ敍述スルト共ニ外交施設カ必シモ純正ナルヲ得サリシ經緯ヲモ併セテ闡明スルコトヲ要ス。據テ茲ニ外務省資料ヲ根據トシ本期間ニ於ケル重要對外國策及之カ實施ヲ案件別ニ編纂スルコトト爲レリ。

外務省ノ外交記錄ハ戰災又ハ火災等ニ依テ烏有ニ歸シタルモノ少カラス。本編纂ハ上司ノ命ヲ承ケ僅ニ免レタル記錄ト重大外交案件ニ直接關與セル先輩乃至同僚ノ有スル手記等ヲ蒐集シ外務省中堅ノ諸氏ヲ中心トシテ降伏ノ年ノ暮ヨリ著手各項目毎ニ分科會ヲ設ケテ進行セラレ最近ニ至ツテ脫稿ヲ見ルニ至レルモノナリ。主ナル擔當者氏名左ノ通リ（イロハ順）

市川調査官、入江囑託、井上庚二郎氏、石井事務官、萩原參事官、蓮見事務官、西山事務官、東郷事務官、若川事務官、和栗書記官、甲斐書記官、貝原事務官、龜山參事官、加瀨參事官、糟谷囑託、米内山囑託、與謝野參事官、吉川事務官、高木書記官、田付書記官、田中事務官、武内參事官、竹内事務官、高橋事務官、曾彌參事官、曾野事務官、永井事務官、中川書記官、成田參事官、内田書記官、野口通譯官、黄田書記官、奥村情報部長、大谷領事、大野參事官、大江書記官、大來技手、小野參事官、矢野參事官、山田參事官、柳井恒夫氏、丸山書記官、古内書記官、深井情報官、近藤事務官、坂根調査官、佐藤書記官、宮林書記官、三宅書記官、下田書記官、關書記官、杉原局長

編纂ニ當ツテハ資料ノ殘存程度如何ニ依リ全項目ヲ通シテ編纂方式モ必スシモ劃一的タルヲ得ス其ノ敍述ニモ精疎ノ差アルヲ免レス又短時日ノ間ニ取纏メラレタル爲メ編輯上猶改善ヲ加フヘキ部分ナシトセスト雖モ現下ノ時務ニ應スルニハ一應足レリト信ス。補正ヲ要スヘキ點ニハ更ニ檢討ヲ加ヘ以テ他日ヲ期セントス。

昭和二十一年二月二十八日

外務省外交資料編修委員會

第一部　目　次

一、「ビルマ」國獨立經緯
二、大東亞戰爭完遂ノ爲ノ「ビルマ」獨立施策ニ關スル件
三、「ビルマ」獨立指導要綱
四、東條內閣總理大臣ヨリ「ビルマ」行政府長官一行ニ對スル示達
五、東條內閣總理大臣「バー・モウ」「ビルマ」行政府長官會見記錄
六、「ビルマ」獨立指導ニ關スル電報
七、日本國「ビルマ」國間同盟條約
八、「ビルマ」紀元千三百五年法律第一號
九、東條總理大臣內奏資料拔粹
一〇、「シヤン」州等ノ歸屬ニ關スル件
一一、「シヤン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ關スル日本國「ビルマ」國間條約

第二部　目　次

一、「フイリピン」國獨立經緯
二、比島獨立指導要綱
三、獨立準備委員會ニ對スル現地軍示達經過
四、「フイリピン」共和國憲法草案（假譯）

五、「フイリピン」新憲法（一九四三年）
六、比島獨立指導要綱ニ基ク現地指導ノ腹案
七、東條内閣總理大臣ヨリ比島獨立準備委員長一行ニ對スル示達
八、日本國「フイリピン」國間同盟條約案
九、日本國「フイリピン」國間同盟條約

第一部　「ビルマ」國獨立

一、「ビルマ」國獨立經緯

一、所謂「ビルマ・ルート」ヲ閉鎖シ同方面ヨリスル重慶方面ヘノ補給ヲ斷絶スルハ支那事變中ヨリ其ノ必要ヲ痛感セラレ來リタル處ナルガ今次戰爭ノ開始セラルルヤ昭和十七年一月十四日我軍ハ遂ニ「ビルマ」領ヘノ進擊ヲ開始シ飯田祥二郎中將指揮ノ下ニ順調ナル進擊ヲ續ケ昭和十七年三月八日「ビルマ」ノ主都ニシテ「ビルマ・ルート」ノ起點タル「ラングーン」ヲ完全ニ占領シ更ニ同年五月一日ニ至リ北方ノ要都「マンダレー」ノ攻略成リ一應全「ビルマ」ヨリ英國ノ勢力ハ一掃セラレタリ

右作戰ニ際シ戰爭開始前ヨリ我勢力圈內ニ亡命シ來リ居リタル「タキン」黨急進分子ヲ中核トシテ「ビルマ」獨立義勇軍ヲ組織シ「ビルマ」方面軍司令官ニ於テ右作戰ニ利用シ、其ノ效果見ルベキモノアリ同義勇軍ハ漸次擴大シ「ラングーン」陷落ノ頃迄ニハ相當ノ多人數トナリ中ニハ不良分子モアリテ「カレンニ」人印度人等トノ間ニ面白カラザル事件發生セルコトアルモ大局的ニハ「ビルマ」民衆ノ民族意識昂揚ニ與ツテ力アリタリト謂ヒ得ベシ

「ビルマ」民衆ハ其ノ念願タリシ英國ヨリノ解放遂ニ達成セラレタリト爲シ其ノ日本軍ニ對スル好感乃至協力振モ他ノ東亞諸地域ニ比シ一段ト良好ナルモノアリタリ

二、斯クテ全「ビルマ」領ハ我ガ軍政下ニ統治セラルルコトトナリタルガ其ノ我方ニ對スル協力ノ實績ニ對シ且ハ其ノ民族的矜持ヲ尊重シ更ニ我方ノ施策ヲヨリ一層徹底セシムル爲「ビルマ」ニ於ケル行政ノ一部ハ「ビルマ」人自身ノ手ニ擔當セシムルヲ可トストノ觀點ヨリ昭和十七年八月一日ニ至リ我ガ最高指揮官ノ下ニ「ビルマ」側ヲシテ行政府ヲ組織セシメ之ガ長官ニハ「バー・モウ」博士ヲ起用シ其ノ下ニ內務、財政、農務、林務、商工、交通灌漑、敎育衞生、司法、土木復興ノ九部ヲ設置シ夫々長官ヲ置キテ「ビルマ」人ニ關スル行政ノ施行ニ當ラシメタリ而シテ其ノ管轄區域ハ「シ

ヤン」諸州「カレンニ」州及其ノ他一部ノ地域ヲ除ク「ビルマ」全域トセラレタリ

「バー・モウ」博士ハ前首相ノ經歴ヲ有スル人物ニシテ我ガ「ビルマ」作戰當時英國側ニ捕ヘラレテ獄舍ニ在リシニ我ガ「ビルマ」進擊ノ狀況ヲ知リテ破獄逃走シ折柄鋭意其ノ行動ヲ探索中ナリシ我ガ軍ノ手ニ救助セラレタルモノニシテ軍事當局ニ於テ其ノ行政的手腕ヲ認メ行政府長官ニ起用セルモノナリ

尤モ前述ノ如ク「ビルマ」作戰ニ於テ多大ノ功績アリシ「ビルマ」獨立義勇軍ハ陷落後ノ「ラングーン」ニ於テ一大政治勢力ニ發展シ一部不良分子ヲ肅清シテ「ビルマ」國防軍トシテ再編成セラレタル後ニ於テモ其ノ中核タル「タキン」黨急進分子ハ無視シ難キ勢力ヲ有シ行政府各部長官ニモ多數起用セラレ行政府ハ謂ハバ「バー・モウ」一派ノ「ダ・バマ・シエン・エタ」黨ト「タキン」黨トノ聯立內閣ノ如キ觀ヲ呈シ而カモ小黨分立的乃至ハ派閥的傾向顯著ナル「ビルマ」政界ノ常トシテ兩者ノ關係必シモ常ニ圓滑ナラズ行政府ハ其ノ後獨立ト共ニ殆ド其ノ儘ノ形態ニ於テ新「ビルマ」國內閣トナリタルガ引續キ「バー・モウ」一派ト「タキン」系政客トノ間ノ對立ヲ持チ越シ種々ノ紛議ヲ生ジタリ

三、一方日本政府及大本營間ニハ戰局ノ發展ト共ニ諸占領地域ノ當面ノ統治形式ヲ決定スル上ニ於テモ或程度此等各地域ノ終局的歸屬ニ關シセメテ腹案ノミニテモ決定ノ要アリトテ其ノ研究ヲ進メ來レルガ「ビルマ」「フィリピン」以外ハ種々ノ議論アリテ容易ニ決定シ得ズ結局昭和十八年一月四日大本營政府連絡會議ニ於テ「占領地歸屬腹案」トシテ「ビルマ」ハ之ヲ獨立セシムルコトニ根本方針ノ確定ヲ見更ニ同月十四日大本營政府連絡會議ニ於テ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ「ビルマ」獨立施策ニ關スル件」決定セラレ(附屬第一號)遲クトモ同年八月一日迄ニハ其ノ獨立ヲ完成セシムルコトトナレリ

卽チ「ビルマ」ヲ完全ニ獨立セシムルコトニ依リ今次戰爭ニ於テ日本ノ目的トスル所ガ侵略乃至ハ征服ニハ非ズシテ東亞諸民族ヲ解放スルニ在ルコトヲ明カニシ以テ敵側ノ宣傳ヲ封殺スルト共ニ東亞諸民族ノ結集ニ效果アラシメント企圖セルモノナリ

從ツテ「ビルマ」ノ獨立ハ之ヲ完全ナルモノタラシムルコト最モ必要ニシテ然ラザレバ寧ロ逆效果トナル惧多分ニアリ此ノ點ハ政府側殊ニ外務省側ノ極力主張セル所ナルガ他面「ビルマ」ノ有スル戰略上ノ地位ニモ鑑ミ軍事上ノ要請ニ對シテモ亦十分ノ考慮ヲ拂フ必要アリ統帥部側トシテ此ノ點ヲ無視シ得ザルハ當然ニシテ此ノ相矛盾スル要請ノ調和ハ結局至難ニシテ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ「ビルマ」獨立施策ニ關スル件」ハ如斯諸要素ヲ可及的調整シツツ決定セラレタルモノナリ而シテ「ビルマ」ノ獨立ガ既ニ我ガ帝國議會ニ於テ東條總理大臣ニ依リ一應言及セラレアリタル「フィリピン」ノ獨立ヨリモ更ニ其ノ時期ヲ早メラレタル所以ハ「ビルマ」民衆ノ我方ニ對スル協力ノ點及一般治安ノ比較的良好ナリシ點ニ於テ「フィリピン」ニ優レル事實ニ依ルコト勿論ナガラ同時ニ「ビルマ」作戰ニ一應ノ成功ヲ見タル我方ハ茲ニ印度ト直接膚接スルニ至リ印度問題ガ我ガ重大關心事トナリ來リタル爲印緬間ノ從來ノ密接ナル關係ニ鑑ミ「ビルマ」獨立ノ事實ガ等シク英國ヨリノ獨立ヲ熱望シツツアル印度民衆ニ及ボス效果ヲ狙ハントシタルモノナルベシ

四、右根本方針ニ基キ帝國政府ハ之ガ具體化ニ關シ鋭意研究ヲ進メ同年三月十日ニ至リ大本營政府連絡會議ニ於テ「「ビルマ」獨立指導要綱」ヲ決定スルニ至レリ(附屬第二號)右要綱ハ其ノ後五月三十一日ノ御前會議ニ於テ決定ヲ見タル「大東亞政略指導大綱」ニ於テ更ニ確認セラレタリ

獨立指導要綱ノ決定ニ當リテハ關係各省間ニ活潑ナル論議アリ「ビルマ」ノ獨立ハ我ガ公明正大ナル戰爭目的ヲ具現セントスルモノナルヲ以テ其ノ獨立ハ飽ク迄「ビルマ」人自身ノ創意ニ基ク自由且完全ナルモノナラザルベカラズ之ニ何等カノ制肘ヲ加ヘ我方ノ傀儡タルガ如キ感ヲ與フルコトアラバ啻ニ我ガ戰爭目的ヲ失フノミナラズ聯合國側宣傳ノ乘ズル所トナリ恐ルベキ逆效果ヲ招來スベシトノ有力ナル意見アリタルニ對シ右意見ハ尤モ乍ラ今次戰爭ガ新秩序ノ建設ヲ標榜スル以上飽迄米英流ノ「デモクラシー」ヲ排シ新ナル東亞的指導理念ヲ盛ラザルベカラズトノ論アリ更ニ又今次戰爭ニ於ケル「ビルマ」ノ有スル作戰上ノ重要性ヨリシテ戰爭完遂ノ必要上可能ナル限リ我方ノ意見ヲ反映シ得ル如ク措置スルヲ要ストノ論アリ而シテ當時ハ未ダ戰勢必シモ我方ニ不利ト云フニ非ズトノ認識一般的ニシテ東亞新秩序ノ主張

強ク且一切ノ政策ノ基調ヲ戰爭完遂ニ置クベシトノ論亦有力ナリシ爲後ノ「フィリピン」獨立指導要綱ニ比スレバ相當我方ノ指導的理念ヲ盛レル指導要綱トナリタル次第ナリ

右要綱ハ其ノ本文ニ於テ「ビルマ」獨立ノ基本理念ト其ノ獨立ニ至ル迄ノ指導ノ要領ヲ指示スルト共ニ其ノ別冊ニ於テ獨立「ビルマ」國ノ基本形態及日緬兩國間ノ基本的關係ヲ概定セリ卽チ

㈠政體及政治機構ニ關シ指導者國家的色彩ヲ帶バシメ「ビルマ」國元首ヲシテ國政ノ運營ニ關シ果斷敏速ナル措置ヲ執リ得ル如ク考慮セラレ將來議會ノ設置ヲ見タル場合ト雖モ之ガ元首ノ國務施行ヲ阻碍セザル如ク留意セシムルコトトセラレアリ

此ノ點ハ第一線的地位ニ在ル「ビルマ」ニ於テ作戰上ノ要請ニ卽應スル迅速ナル政務ノ執行ヲ要望スル見地ノミナラズ小黨分立的傾向顯著ナル「ビルマ」政界ニ於テ「バー・モウ」ノ地位ヲ盛リ立ツル必要アリタルニ依ルモノナリ

右ハ又「ビルマ」ニ於テハ「バー・モウ」ヲ我方ニ於テ指名シテ來朝ヲ求メ之ニ我方ノ方針ヲ示達シ以テ同人ヲ元首タラシムル樣措置シタル所以ニシテ「フィリピン」ニ於ケルガ如ク選擧ニ依リ首班ヲ決定スルハ「タキン」黨等トノ關係上「ビルマ」ニ於テハ徒ニ內紛ヲ惹起スル惧アリタル次第ナリ

㈡「ビルマ」國軍ノ設置ハ認メラレタルモ其ノ活動ノ主眼ハ我方トノ協力ニ重點ヲ指向スル如ク定メラレタリ

㈢經濟ニ關シテハ「ビルマ」國ノ主權下ニ其ノ公正自由ナル活動ヲ認メ我方之ニ援助ヲ吝マザルコト勿論ナガラ東亞全域ヲ通ズル計畫經濟ノ一環トシテ存在セシムルヲ明カニスルト共ニ軍事上ノ要請ヨリスル種々ノ制約ヲ附加セラレタリ

㈣新「ビルマ」國ノ領域ニ關シテハ「シヤン」「カレンニ」地區ニ付問題アリ卽チ之等地域ハ其ノ軍事上ノ重要性ヨリシテ之ヲ帝國ノ領土トスベシトノ議論スラ相當有力ニ行ハレタルノミナラズ其ノ一部ハ同方面ニ於テ我軍ト作戰協力シツツアル「タイ」國ニ割讓スル必要アリタルヲ以テ之ガ所屬決定ハ後日ニ讓ルコトトセラレタリ只同地方ハ從來

「ビルマ」領ノ一部ニシテ新「ビルマ」國ノ領域トハ密接不可離ノ關係ニアルヲ以テ此ノ關係ヲ破壞セザル樣特別ノ考慮ヲ拂フコトトセラレタリ

㈤新「ビルマ」國ニ對シテハ帝國ヨリ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシムルコトトナレリ右ハ「ビルマ」ノ獨立ヲ承認スル以上當然ノ措置ナルモ「ビルマ」ノ有スル作戰上ノ重要性ニ鑑ミ新政府ニ對スル我方ノ指導ハ現地陸軍最高指揮官ヲシテ一元的ニ之ニ當ラシメ度トノ軍側ノ强キ要請アリ大使ガ其ノ獨自ノ權限ニ基キ「ビルマ」側ト自由ニ折衝シ軍側ト意見ノ對立ヲ來スガ如キコトナキ樣明白ナル保證ナキ限リ大使ノ派遣ヲ認メ難シトナシ大使ヲ軍司令官ノ指揮下ニ置クベシトカ軍司令官ヲシテ大使ヲ兼任セシムベシトカノ論アリタルモ結局大使ハ專任ノ大使ヲ派遣スルコトトシ但シ陸海軍竝ニ大使館ノ分擔スベキ業務ノ分界ニ關シ內閣、陸軍、海軍、外務、大東亞各省間ニ於テ一ノ申合セ(「ビルマ」獨立指導要綱別册第三ノ七ニ關スル申合セ)ヲ作成スルコトトナレリ

右申合セニ依レバ大使館側ノ分擔スベキ業務ハ純外交竝ニ文化事業ヲ除キテハ殆ド皆無ニ等シク前二者スラ戰時下ニ於テハサノミ重要性ヲ有スルモノトハ考ヘラレザルナリ斯クテハ大使派遣ハ其ノ意義ヲ喪フノミナラズ軍側ノ直接指導ノ面ノ多キハ獨立「ビルマ」國ノ體面ヲ毀損シ延イテハ其ノ獨立ノ意義スラ沒却セラルルノ虞ナシトセズ依ツテ此ノ點ニ關シテハ關係各省間ノ諒解トシテ純軍事的事項ヲ除キテハ「ビルマ」側トノ接觸ハ常ニ大使ヲ通ズベキモノトセラレタリ

五、斯クテ右要綱ノ三ニ基キ三月中旬ニ至リ「ビルマ」行政府長官「バー・モウ」、同財務長官「テー・モン」及「ビルマ」防衛軍司令官「オン・サン」少將ノ三名ヲ東京ニ招致シ三月二十二日東條內閣總理大臣ハ一行ト會見「ビルマ」國ノ獨立ヲ許容スル帝國ノ意嚮ヲ正式ニ示達シ同月十九日大本營政府連絡會議ニ於テ決定セル處ニ基キ其ノ大綱ヲ提示シタルニ對シ(附屬第三)「バー・モウ」長官ヨリ附屬第四ノ如キ應答アリタリ(附屬第五)

六、爾來現地ニテハ軍司令官ハ前記要綱ノ定ムル所ニ基キ八月一日ヲ獨立ノ時期ト豫定シ「バー・モウ」ヲ中心トスル獨

立準備委員會ヲ編成セシメ鋭意獨立建國ニ關スル萬般ノ準備ヲ爲サシメ來レリ

其ノ後現地ニ於ケル準備ハ概ネ豫定ノ通リ進捗シ六月十一日ニ至リ獨立準備委員會ヨリ我方ニ對シ新國家機構ニ關スル答申案ヲ提出スルニ至レリ（附屬第六）

以上現地ニ於ケル獨立準備ノ過程ニ於テ相當程度「ビルマ」側ニ我方ノ意響ヲ押シ付ケタル感アリ右ハ元來中央ニ於テ決定セル獨立指導要綱ガ所謂新秩序的理念ト我方ノ軍事上ノ要請達成ヲ强調スルニ急ニシテ「ビルマ」側要望ヲ無視セル傾向アリタルコト而モ獨立ノ時期ヲ急ギタル爲現地軍當局トシテハ右ノ如キ中央ノ意響ヲ「ビルマ」側ニ容認セシムルニ急ニシテ「ビルマ」側トノ折衝ニ於テ政治性ヲ缺キタルコト、現地ニ於ケル折衝當局者（日本軍擔當官ト「ビルマ」側要人達）ノ性格ガ必シモ調和セザリシコト等ニ依ルモノナルベキガ結果的ニハ「ビルマ」側ニ獨立ノ滿足ヲ與ヘツツモ其ノ過程ニ於テハ必ズシモ好印象ヲ與ヘズ爾後ニ於テモ「ビルマ」側ト現地軍トノ間ニ一種ノ氣不味キ感情ヲ殘留セシメタルガ如シ

以上ノ如キ現地ニ於ケル獨立準備施策ト併行シ中央ニ於テモ亦條約等ノ準備其ノ他種々研究ヲ續ケ來レルガ七月ニ至リ帝國政府ハ「ビルマ」國ノ獨立宣言後直ニ同國ヲ承認シ且同國トノ間ニ同盟條約ヲ締結スルノ方針ヲ決定シ七月十九日大本營政府連絡會議諒解トシテ決定セル條約案文ヲ「ビルマ」側ニ提示シ（附屬第七）交渉ヲ行ヒタル結果「ビルマ」側ヨリハ別ニ條文ニ對スル修正意見モナク條約案文ハ其ノ儘妥結セラレタリ

本條約案ニ就テハ其ノ案文ノ決定前外務省及大東亞省ハ㈠「ビルマ」國ニ派遣セラレ居ル帝國軍隊ヲ戰後撤兵スベキ旨ノ條項及㈡大東亞ノ平和維持及共同ノ建設ノ爲ノ大東亞會議ヲ開催スル旨ノ條項ヲ挿入スベク努力セルモ何レモ軍側ノ反對ニ依リ實現ニ至ラザリキ

七、斯クテ萬般ノ準備完了シ獨立豫定日タル昭和十八年八月一日「ビルマ」方面軍最高指揮官ハ先ヅ軍政廢止ノ佈告ヲ行ヒ次イデ「ビルマ」ハ其ノ獨立ヲ宣言シ諸外國ニ對シ通電ヲ發セリ依ツテ我國ハ同國トノ間ニ同盟條約ヲ締結スベキ正

式ノ交渉ヲ行ヒ前記條文ニ依リ澤田特命全權大使ト「バー・モウ」「ビルマ」國內閣總理大臣トノ間ニ署名調印ヲ了シ同時ニ「ビルマ」國ハ米英ニ對シテ宣戰ヲ布告セリ

茲ニ「ビルマ」ハ新ナル獨立主權國家トシテ誕生シ漸ク同方面ノ戰況苛烈ヲ加ヘ來レルニ不拘「ビルマ」民衆ニ對シ新ナル希望ヲ與ヘタルコトハ否ミ難キ所ナルベシ

八、而シテ獨立「ビルマ」國ノ根本ヲ律スベキ憲法ハ獨立ト同時ニ制定公布スルコト當然ニシテ且最モ望マシキコトナルモ「ビルマ」ハ當時今次戰爭ノ最前線タリシノミナラズ聯合國側ノ反擊最モ熾烈ヲ豫想セラルル戰場ニシテ獨立ノ行事スラ當日迄之ヲ祕匿スルノ必要アリ地方ニ於テハ爾後暫ク獨立ノ事實スラ知ラザル者アリシ有樣ナルヲ以テ全國民ノ民意ヲ代表スル者ノ選擧、參集等モ殆ド困難ナリト豫想セラレ且豫定セラレタル八月一日迄ニハ到底之ヲ完成スルノ時間的餘裕無カリシ爲眞ノ憲法ハ戰爭狀態之ヲ許ス場合ニ於テハ獨立後一年以內ニハ憲法制定委員會ヲ召集シテ之ヲ決定スルノ根本方針ヲ定メ右時期迄ノ暫定措置トシテ「ビルマ」國ノ根本ヲ律スベキ『「ビルマ政府」ノ基本組織法』ヲ制定法律第一號トシテ公布セラレタリ（附屬第八）

九、其ノ後「ビルマ」國ハ東亞諸國家竝ニ獨逸ヲ始メ樞軸側諸國家ヨリ承認ヲ受ケ「ビルマ」國自身ハ固ヨリノコト我方ニ於テモ亦之ガ獨立ノ完成ヲ目指シ渾身ノ努力ヲ傾ケタルモ聯合國側ノ反擊ハ豫想以上ニ激烈ニシテ新政府ノ威令ハ仲々地方ニ浸透セズ一方益々加重セラルル軍事的要請ハ勢ヒ軍側ノ發言權ヲ增大スル結果トナリ內政ヘノ干涉乃至ハ軍人ニ依ル壓迫ノ增加ヲ招來シ稍モスレバ當初ノ崇高ナル理念ヲ忘ルルガ如キ事態ノ頻發ヲ見ルコトトナリ遂ニ國軍一部ノ離反トナリ民心新政府ヲ去ルニ至リタルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ

「シヤン」地方等ノ歸屬問題ニ關スル經緯

一、昭和十八年三月「バー・モウ」行政府長官一行ヲ東京ニ招致シ「ビルマ」ノ獨立許容ニ關スル示達ヲ行ヒタル際新「ビ

ルマ」國ノ領域ニ關シテハ舊英領「ビルマ」全域ヨリ「シヤン」州「カレンニ」州及其他ノ一部地域ヲ除外スベキ旨明カニセラレタリ右ノ如キ決定ヲ爲シタル理由ハ其ノ當時大東亞戰爭ノ開始以來我方ニ協力シ來レル「タイ」國ニ對シ一部領土ヲ割讓スル必要アリタル處其ノ地域未ダ具體的ニ決定セラレズ從ツテ泰緬兩國ノ接壤地方ニ付テハ其ノ領有ヲ決定シ得ザリシコト「シヤン」州ノ一部ニハ「タイ」國軍隊出動シテ我方ニ協力作戰シ在リタル爲直ニ之ヲ「ビルマ」領ト決定シ得ザリシコト竝ニ「シヤン」地方ハ其ノ軍事上ノ重要性ニ基キ我方ノ把握ヲ的確ナラシムル必要アリシノミナラズ我ガ一部ニハ之ヲ帝國領土トシテ保有スベシトノ議論スラ相當有力ニ行ハレ居リタル爲ナリ

二、其ノ後六月二十六日ニ行ハレタル大本營政府連絡會議ニ於テハ「タイ」國ニ對スル領土ノ割讓ハ「ビルマ」獨立ニ先行シテ行ハルベク其ノ地域ハ「ケントン」「モンパン」兩州ト決定シ殘餘ノ「シヤン」諸州、「カレンニ」諸州及「ワー」地方ハ將來之ヲ「ビルマ」領ニ編入スベキモ其ノ時期ハ追而定ムルコトニ方針ヲ決定セリ

三、其ノ後七月東條內閣總理大臣ハ南方各地ヲ視察セル際「バンコツク」ニ於テ「タイ」國首相「ピブン」ニ對シ「ケントン」、「モンパン」兩州ヲ「タイ」國領土トシテ割讓スベキ旨明カニシタル後「バー・モウ」行政府長官ヲ昭南ニ招キ「ケントン」、「モンパン」兩州ハ之ヲ「タイ」領ニ編入スル豫定ナルモ殘餘地域ハ將來「ビルマ」領土ニ編入スルコトヲ考慮スル積リナル旨申傳ヘ只差當リ之ヲ公表スルガ如キコトナキ樣注意ヲ與ヘタリ東條首相ノ右內示ハ恐ラクハ一部地域ノ「タイ」領編入發表セラレタル際自國領土ヲ割讓セラレタリトスル「ビルマ」民衆ノ衝動不安ヲ押ヘントシタルモノナルベシ（附屬第九）

四、帝國政府ハ「シヤン」諸州等ノ「ビルマ」領土ヘノ編入ヲ決定セル後之ガ發表竝ニ實行ノ時期ニ關シ研究ヲ重ネ結局新「ビルマ」國ノ獨立ノ際ハ之ヲ發表スルコトナク其ノ領域ハ飽迄既ニ示達セル處ニ依ラシムルコトトシ其ノ後「ビルマ」國ノ戰意昂揚上最モ效果的ナル時期ヲ捉ヘテ之ヲ發表實行スルコトトナリ情勢ノ推移ニ注意スルコトトナレリ

五、斯クテ八月一日「ビルマ」國ハ其ノ獨立ヲ達成シ我ガ同盟國トシテ相共ニ協力シツツアリタルガ同月三十日澤田大使

ハ「バー・モウ」總理及河邊軍司令官ヲ茶會ニ招キ情報交換ヲ主トシ併セテ日緬協力ノ各部面ニ付懇談シタル際「バー・モウ」總理ハ「シヤン」地方等ノ歸屬問題ニ言及シ「タイ」國ニ編入セラレタル二州ニ關シテハ日泰兩國間ニ正式條約迄締結セラレタルニ「ビルマ」國ニ編入セラルベキ殘餘諸州ニ關シテハ未ダ何等發表セラルル處ナク其ノ爲國民ノ一部殊ニ「シヤン」州「カレンニ」州等ノ現地住民ハ其ノ將來ニ付不安ヲ感ジ動搖シツツアリ而モ「ビルマ」國政府トシテハ未ダ本件ニ關シ何等ノ言明ヲ爲スコトヲ得ズ甚ダ苦シキ立場ニ在ル趣ヲ强調シ日本側ニテ內定シアル點ヲ成ルベク速ニ發表スルコトヲ承諾セラレタシト申出タリ澤田大使ハ直チニ其ノ旨中央ニ電報スルト共ニ同大使ノ意見ニ依レバ偶々「ビルマ」側ニ於テハ九月二十六日以降一週間ヲ獨立祝賀週間トシテ全國的ニ各種祝賀行事ヲ催スベク準備中ナルヲ以テ本件ハ其ノ際ニ發表スルコト最モ效果的ナリト信ズル旨意見具申アリタリ

六、右ニ對シ中央ニ於テハ贊否兩論アリ陸軍側ハ澤田大使ノ意見ニ贊成セルモ海軍側ハ之ニ反對セリ其ノ理由トスル所ハ帝國ガ一度決定シテ右地域ヲ除外シテ「ビルマ」國ノ獨立ヲ承認セルニ未ダ幾何モ經ザルニ帝國ノ決定ヲ變更シテ右地域ノ編入ヲ認ムルハ對緬政策上我方ノ權威ヲ失墜スルノ惧アリ必シモ樂觀ヲ許サザル戰局ノ將來ヲ考フレバ右發表ヲ更ニ有效ナラシムルノ時期アルベシト云フニアリ斯クテ本件ニ關スル中央ノ意見ハ容易ニ決定セラレザリシモ陸軍側ノ贊成意見强ク遂ニ九月十八日ノ大本營政府連絡會議ニ於テ澤田大使ノ意見ノ通獨立祝賀週間ノ實施ヲ期トシテ之ヲ實行スルコトニ決定セラレタリ（附屬第一〇）

同日重光外務大臣ハ在「ラングーン」澤田大使宛電報ヲ以テ條約案ヲ示シ（附屬第一一）右ニ依リ「ビルマ」國側ノ同意ヲ取付クル樣訓令セリ、只條約案第二條ニ規定セラレタル行政終止ノ期日ニ關シテハ現地軍ノ意嚮ヲ尊重シ同軍ト協議決定スベキ旨併セテ訓令セリ而シテ右期日ニ關シテハ現地ニ於テ陸軍、大使館協議ノ結果條約實施ノ日ヨリ九十日以內ト決定セリ

本條約案ニ關シテハ「ビルマ」側ニ何等異論ナク豫定ノ通「ビルマ」國獨立祝賀週間ノ第一ニ當ル九月二十五日（「ラン

グーン」ニ於ケル主要祝賀行事ヲ第一日ニ集中シアリ當時既ニ激烈ヲ極メアリシ英國側ノ爆撃ヲ回避スル必要上企圖ヲ祕匿シ祝賀週間ノ第一日ヲ一日繰上ゲタリ）「ラングーン」ニ於テ澤田大使ト「バー・モウ」總理大臣トノ間ニ署名調印ヲ了シ同日ヨリ實施セラレタリ

本條約ハ卽日發表セラレ獨立祝賀週間ノ劈頭ヲ飾ルト共ニ「ビルマ」國民竝ニ「シヤン」州等ノ現地住民ニ安心ヲ與ヘ民心安定上相當ノ效果ヲ擧ゲタリ、獨リ「ビルマ」國民ノミナラズ「シヤン」州等ノ歸屬ニ關シ我方ノ態度ヲ猜疑ノ眼ヲ以テ注視シアリシ諸國殊ニ東亞諸民族ニ對シ我國ノ公明ナル態度ヲ表明シタルモノトシテ好感ヲ與ヘタルハ事實ナリ

尙本條約第三條ノ規定ニ基キ同年十二月二十三日ニ至リ「シヤン」、「カレンニ」、「ワー」諸州ニ於ケル我方軍政ハ完全ニ撤廢セラレ一切ノ行政權ハ「ビルマ」國側ニ引繼ガレ玆ニ「ビルマ」國ハ其ノ全領域ニ對シ完全ナル施政ヲ行フコトトナレリ

附屬第一

二、大東亞戰爭完遂ノ爲ノ「ビルマ」獨立施策ニ關スル件

（昭和十八、一、一四日連絡會議決定）

第一　方針

大東亞戰爭完遂ニ資スル爲速ニ「ビルマ」ノ獨立ヲ許容スルト共ニ新「ビルマ」ヲシテ眞ニ帝國ト緊密一體戰爭完遂ニ協力セシム

第二　要領

一、獨立許容

(イ)「バー・モウ」ヲ中心トシテ直ニ獨立準備委員會ヲ設置セシメ速ニ獨立準備ヲ進捗セシム

(ロ)獨立國家トシテノ「ビルマ」ノ疆域ハ現「ビルマ」行政府ニ管轄セシメアル區域トシ「シヤン」諸州及「カレンニ」州ハ之ヲ除外ス

(ハ)「ビルマ」ハ「ビルマ」民族ヲ主體トシ印度人其他異民族ヲ協和的ニ抱擁スル國家トス

(ニ)政體ハ將來「ビルマ」人自體ニ於テ之ヲ決定セシムルモ國政ノ運用ヲ强力簡素ナラシムル如ク政治機構ニ付特別ノ考慮ヲ加ヘシム

(ホ)獨立許容ノ時期ハ遲クモ本年八月一日ト豫定ス

(ヘ)獨立後我方諸施策ノ運用ニ當リテハ獨立許容ガ有名無實ナリトノ印象ヲ與ヘザル如ク留意シ特ニ「ビルマ」官民ノ創意ト責任トヲ尊重スルモノトス

二、戰爭協力

「ビルマ」ハ獨立後帝國ト共ニ對米英戰爭協力ニ徹底セシメ差當リ戰爭協力ノ重點ヲ戰爭必需物資ノ供出、治安維持ノ强化、交通ノ圓滑化ニ置カシム

之ガ爲獨立ニ際シ米英ニ對シ宣戰セシムルト共ニ戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上、經濟上帝國ト完全ナル協力ヲ爲スモノナル旨盟約セシム

三、將來ノ日緬關係

更新「ビルマ」ヲシテ帝國ヲ盟主トスル大東亞團結ノ結成分子トシテ軍事、外交、經濟等ニ關シ帝國ト緊密ノ關係ヲ保持スルコトヲ盟約セシムル爲日緬間ノ基本關係ヲ律スル條約ヲ締結スルコトヲ豫期ス

備考　本件ハ今後狀勢ノ推移等ニ依リテハ變更スルコトアルベシ

三、「ビルマ」獨立指導要綱

（昭和一八、三、一〇日大本營政府連絡會議決定）

第一　方針

一、八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムルノ大義ニ則リ帝國輔導ノ下努メテ「ビルマ」ノ創意ト責任トヲ尊重シツツ大東亞共榮圈ノ一環タル新「ビルマ」國ヲ生成ス

而シテ新「ビルマ」ヲシテ先ヅ速ニ帝國ト緊密一體大東亞戰爭完遂ニ協力シ得ル物心兩面ノ態勢ヲ整備セシム

第二　指導要領

二、獨立準備ノ目標ト爲スベキ「ビルマ」國及日緬關係ノ基本的形態別冊ノ如シ

三、三月中旬頃「バー・モウ」及所要ノ「ビルマ」要人ヲ招致シ政府ヨリ獨立許容ヲ正式ニ示達スルト共ニ獨立ノ大綱ヲ指示ス

四、現地軍司令官ハ中央ト密ニ連絡シ其ノ指導下ニ「バー・モウ」ヲ中心トシ所要ノ人員ヲ以テ獨立準備委員會ヲ編成セシメ先ヅ建國ノ精神ヲ確立シ次デ獨立後ニ於ケル新「ビルマ」國ノ形態、組織及獨立ヘノ轉移ニ伴フ諸般ノ施策等ヲ立案審議セシム

日本人ハ本編成ニ入ルコトナク之ヲ指導スルモノトス

五、獨立準備期間ヨリ現行政府長官「バー・モウ」ヲ以テ新「ビルマ」國ノ指導者タラシムル如ク諸般ノ施策ヲ進ムルモノトス

六、獨立ノ時期ハ昭和十八年八月一日ト豫定シ其ノ準備完了ハ概ネ六月下旬ヲ目途トス

七、獨立ニ際シ米英ニ對シ宣戰セシム

八、獨立ト共ニ締結スベキ日緬間ノ條約ハ必要ノ最少限ニ止ム

別　冊

「ビルマ」國及日緬關係ノ基本形態

第一　建國ノ理念

一、大日本帝國ヲ盟主トスル大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義ニ基ク新「ビルマ」國ヲ建設シ以テ世界新秩序ノ創造ニ寄與ス

第二　國家構成

二、國體及政體ハ努メテ「ビルマ」人自體ノ發意ニ俟チ之ヲ決定スルモ政體ニ就テハ指導者國家ノ形態ヲトラシム

三、領域ハ全「ビルマ」ヨリ「シヤン」諸州及「カレンニ」州ヲ除外シタル地域トス

「シヤン」諸州及「カレンニ」州ノ歸屬ハ別ニ定ム

四、國民ハ「ビルマ」民族ヲ主體トシ領域ニ在ル諸民族ヲ協和的ニ抱擁シテ之ヲ構成ス

而シテ印度人ニ對スル「ビルマ」國籍ノ附與ハ前項ノ趣旨ニ基キ「ビルマ」國ノ選擇スル所ニ依ル

日本人ハ「ビルマ」國民タルコトナシ

五、國名、國旗、首都ハ主トシテ「ビルマ」側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

第三　日緬關係ノ大綱

六、帝國ノ對緬施策ノ要ハ「ビルマ」國ヲシテ努メテ「ビルマ」國人ノ創意ト責任トニ依リ眞ニ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國トシテノ名實ヲ備ヘシムルニ在リ

七、帝國ハ「ビルマ」國ニ對シ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシム

當分ノ間現地ノ特殊事情ニ鑑ミ現地帝國側官憲ノ業務實施ニ關シテハ特ニ軍事上ノ要請ヲ考慮シ實情ニ卽スル如ク措置

スルモノトス

八、帝國ハ「ビルマ」國政府内ニ少數精鋭ナル日本人ヲ配置シ之ガ指導ニ任ゼシム

右日本人ハ「ビルマ」國官吏トセズ

第四　國政

九、政治機構及之ガ運用ハ努メテ强力簡素ナラシムルヲ方針トシ國家代表ノ下ニ行政、司法ノ兩機關ヲ置キ當分ノ間國家代表ハ行政機關ノ長官之ヲ兼ヌ

立法ハ國家代表之ヲ行フ

一〇、國民參政ノ範圍及形態ハ「ビルマ」人ノ意志ヲ尊重シ之ヲ定ム

但シ議會ヲ設ケタル場合ニ於テモ之ガ爲國家代表ノ國務施行ヲ阻害セザル如ク留意ス

又政黨ノ分立抗爭ヲ戒ム

重要國務ノ諮問機關トシテ參議府(假稱)ヲ設クルコトヲ得

一一、治外法權ハ之ヲ設ケズ

但シ日本人ニ對シテハ「ビルマ」人ニ比シ不利ナラザル待遇ヲ附與ス

一二、外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

第五　軍事

一三、帝國トノ間ニ軍事上完全協力ヲ約シ帝國軍隊ノ爲一切ノ便宜ヲ供與ス

所要ニ應ジ帝國軍隊ノ爲ノ施設等ヲ擔任ス

一四、「ビルマ」防衛ニ必要ナル所要ノ陸海軍ヲ保有ス

但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質的ニ帝國之ヲ指導ス

「ビルマ」國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ關シ夫々在緬帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ヲ承ク

第六　財政、經濟及交通

一五、經濟ハ大東亞經濟建設ノ計畫ニ從ヒ其ノ一環トシテ「ビルマ」國ノ主權下ニ於テ公正自由ナル活動ニ依リ之ガ振興ヲ期ス

但シ帝國側ハ之ニ所要ノ援助ヲ與ヘ又大東亞建設上特ニ必要ナルモノハ帝國ノ施策ニ順應セシムル如ク所要ノ措置ヲ講ズ

一六、金融ニ關シテハ資金ノ交流、決濟方法、換算率等ニ付帝國及爾他ノ地域トノ協力的體制ニ於テ之ヲ整備ス

發券機構ヲ整備シ新ナル通貨制度ヲ確立ス但シ之ガ實施ノ時期ハ諸般ノ情勢ヲ考慮シテ別ニ定ム

一七、財政ハ速ニ自立セシムル如ク指導ス

一八、交通及通信ハ「ビルマ」國ノ主權下ニ置クモ重要ナルモノニ關シテハ帝國ノ特別ナル要請ヲ認メシメ特ニ作戰用兵ニ支障ヲ來サザル如ク措置ス

一九、「ビルマ」國ト他地域トノ交通及物資ノ交流ハ大東亞ヲ通ズル計畫ニ從フモ其ノ要領ハ當分ノ間概ネ現狀ヲ維持ス

但シ爲シ得ル限リ「ビルマ」國人ヲ之ニ參加均霑セシム

二〇、敵產ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把握スルヲ必要トスル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ「ビルマ」國ニ移讓ス

第七　「シヤン」、「カレンニ」地區ト「ビルマ」トノ關係

二一、帝國軍ニ於テ現ニ軍政ヲ實施シアル「シヤン」及「カレンニ」地區ニ對シテハ差當リ依然軍政ヲ續行スルモ「ビルマ」國トハ現在ノ密接ナル關聯性ヲ破壞セザル趣旨ノ下ニ左ノ如ク施策ス

1兩地域ノ自由ナル出入ヲ認ム

2物資ノ交流ヲ自由ナラシメ互ニ關税等ヲ徴收セズ
3本地區ニ於テハ「ビルマ」ニ於ケルト同一ノ通貨ヲ使用ス
4交通、通信等ハ努メテ「ビルマ」ニ於ケル企業體ニ經營セシム

「ビルマ」獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ

（昭和一八、三、一〇　陸軍省、海軍省、外務省、大東亞省、内閣）

「ビルマ」獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ基ク現地ニ於ケル帝國側官憲ノ業務實施要領ハ當分ノ間概ネ左ノ通リトシ「ビルマ」政府トノ交渉ハ努メテ大使ヲ通ズルモノトス

一、大使
純外交
帝國商事ノ保護ニ關スル事務
帝國臣民ニ關スル事務
移植民、海外拓殖事業ニ關スル事務
文化事業ニ關スル事務
二、海軍最高指揮官
「ビルマ」國海軍軍備及之ガ用兵ニ關スル事項
三、陸軍最高指揮官
其ノ他ノ事項
以上ノ業務實施ニ方リテハ相互關連事項ニ就キ密ニ協議スルモノトス

附屬第三

四、東條內閣總理大臣ヨリ「ビルマ」行政府長官一行ニ對スル示達

（昭和十八年三月十九日大本營政府連絡會議決定）

萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルハ帝國不動ノ國是ナリ

帝國ハ此ノ國是ニ基キ「ビルマ」民衆多年ノ宿望タル新「ビルマ」ノ獨立ヲ認ムルモノニシテ茲ニ帝國ノ意圖ヲ披瀝スルヲ得ルハ本大臣ノ最モ欣快トスル所ナリ

第一、建國ノ精神ニ就テ

新「ビルマ」國ノ建設ニ當リ帝國ノ最モ關心ヲ有スルハ其ノ建國ノ精神トス

新「ビルマ」國ハ完全ナル獨立國タルベク其ノ建國ノ精神ハ固ヨリ「ビルマ」自體ノ決定スベキモノナリト雖帝國ハ新「ビルマ」國ガ大東亞共榮圈ノ一環タル道義ニ基ク新國家ニシテ世界新秩序ノ創造ニ寄與スルモノタルベキヲ確信ス

第二、國家ノ構成ニ就テ

新「ビルマ」國ノ領域ハ曩ニ現行政府ノ管轄區域ナリト聲明セシガ茲ニ更ニ「シヤン」「カレンニ」地區以外ノ全「ビルマ」ヲモ包含スルモノナルヲ明言ス

國民ハ「ビルマ」民族ヲ主體トシ領域內ノ諸民族ヲ協和的ニ抱擁スルノ趣旨ニ依リ決定センコトヲ望ム

政治機構ノ決定ニ方リテハ特ニ國政ノ運用ヲ强力簡素ナラシムルコトヲ希望ス

第三、日緬基本關係ニ就テ

帝國ハ新「ビルマ」國ガ其ノ創意ト責任トニ於テ速ニ獨立國ノ實ヲ具フルコトヲ冀念シ全幅ノ支援ヲ爲スベシ新「ビルマ」國亦大東亞共榮圈ノ一環トシテ政治、軍事、外交、經濟等ノ各般ニ於テ將來ニ亙リ帝國ト密ニ提携協力スベキコト

ヲ期待ス

第四、對米英宣戰及戰時態勢確立ニ就テ

新「ビルマ」國ハ獨立ト同時ニ米英ニ對シ宣戰スルト共ニ速ニ戰時ニ卽應スル諸般ノ態勢ヲ整備シ以テ帝國ト緊密一體戰爭完遂ニ邁進センコトヲ切望ス

第五、軍事ニ就テ

新「ビルマ」國ハ作戰上ノ要請ニ鑑ミ軍事上帝國ト完全ニ協力シ帝國軍隊ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スルト共ニ「ビルマ」國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ付在緬帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ニ服セシメンコトヲ望ム

第六、經濟ニ就テ

新「ビルマ」國ノ經濟ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ其ノ主權ノ下ニ於テ公正潑溂タル活動ニ依リ之ガ振興ヲ期セラレ度帝國ハ之ニ所要ノ援助ヲ與フルノ用意ヲ有ス

而シテ戰爭遂行上必要ナルモノニ付テハ帝國ノ施策ニ特ニ順應スルノ措置ヲ講ゼンコトヲ望ム

第七、獨立ノ準備ニ就テ

以上ノ諸點ヲ了承シ新「ビルマ」國ノ首班タルベキ貴下ハ速ニ獨立準備委員會ヲ設ケ獨立ニ關スル諸般ノ準備ヲ進メンコトヲ望ム

而シテ獨立ノ時期ハ八月前後ト豫定シ之ガ準備ハ概ネ六月末迄ニ完了スベキヲ希望ス

尙細部ニ關シテハ現地軍司令官ヨリ承知セラレ度

惟フニ一國ノ創成ハ容易ノ業ニ非ズト雖モ「ビルマ」民衆一千餘萬ノ熱望ハ必ズヤ之ヲ玉成スベク之ガ指導ノ重責ヲ双肩ニ擔フ貴下等ノ本懷又之ニ過グルモノナカラン

宜シク帝國ノ意圖スル所ヲ體シ凡ユル障碍ヲ克服シ以テ建國ノ偉業ヲ完成シ相携ヘテ戰爭完遂、大東亞ノ新秩序建設ニ

邁進セラレンコトヲ切望シテ止マズ

附屬第四

五、東條內閣總理大臣「バー・モウ」「ビルマ」行政府長官會見記錄

（昭和十八年三月二十二日於總理大臣官邸）

列席者左ノ通

帝國政府側

外務大臣　谷　正之
大東亞大臣　青木　一男
內閣書記官長　星野　直樹

「ビルマ」方面軍司令官　河邊　正三
「ビルマ」方面軍々政監部總務部長兼參謀副長　磯村　武亮

「ビルマ」行政府側

內務長官　モン・ミヤ
財務長官　テー・モン
「ビルマ」防衛軍司令官　オン・サン少將

一、東條總理大臣ヨリ「ビルマ」ノ獨立ニ關スル帝國政府ノ意圖ヲ披瀝スベシト前置キシ別紙第一ノ通リ述ベタリ

尙別紙第一中ノ「第三、日緬基本關係ニ付テ」ニ關シ東條總理大臣ヨリ左ノ通リ附加セリ

「日緬ノ關係ハ道義ニ基ク精神的連鎖ヲ主トスルモ建國ニ當リテノ承認ニ關聯シテ兩國間ノ基本關係ヲ律スベキ條約ノ

締結ヲ豫想スル次第ナリ

尚承認ノ上ハ速ニ大使ノ交換ヲ行ヒ度シト存ス」

終ニ當リ東條總理大臣ヨリ左ノ通述ベタリ

「以上述ベタルコトノ中帝國ニ於テ公表スルコト以外ハ機密ニシテ特ニ宣戰ニ關スル件ト獨立ノ時期トハ絶對ニ祕匿致シ度シト存ス」

二、之ニ應ヘ「バー・モウ」長官ヨリ別紙第二ノ趣旨ヲ陳述セリ

別紙第一

萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルハ帝國不動ノ國是ナリ

帝國ハ此ノ國是ニ基キ「ビルマ」民衆多年ノ宿望タル新「ビルマ」ノ獨立ヲ認ムルモノニシテ茲ニ帝國ノ意圖ヲ披瀝スルヲ得ルハ本大臣ノ最モ欣快トスル所ナリ

第一　建國ノ精神ニ就テ

新「ビルマ」國ノ建設ニ當リ帝國ノ最モ關心ヲ有スルハ其ノ建國ノ精神トス

新「ビルマ」國ハ完全ナル獨立國タルベク其ノ建國ノ精神ハ固ヨリ「ビルマ」自體ノ決定スベキモノナリト雖帝國ハ新「ビルマ」國ガ大東亞共榮圏ノ一環タル道義ニ基ク新國家ニシテ世界新秩序ノ創造ニ寄與スルモノタルベキヲ確信ス

第二、國家ノ構成ニ就テ

新「ビルマ」國ノ領域ハ曩ニ現行政府ノ管轄區域ナリト聲明セシガ茲ニ更ニ「シヤン」、「カレンニ」地區以外ノ全「ビルマ」ヲモ包含スルモノナルヲ明言ス

國民ハ「ビルマ」民族ヲ主體トシ領域内ノ諸民族ヲ協和的ニ抱擁スルノ趣旨ニ依リ決定センコトヲ望ム

政治機構ノ決定ニ方リテハ特ニ國政ノ運用ヲ强力簡素ナラシムルコトヲ希望ス

第三、日緬基本關係ニ就テ

帝國ハ新「ビルマ」國ガ其ノ創意ト責任トニ於テ速ニ獨立國ノ實ヲ具フルコトヲ冀念シ全幅ノ支援ヲ爲スベシ新「ビルマ」國亦大東亞共榮圈ノ一環トシテ政治、軍事、外交、經濟等ノ各般ニ於テ將來ニ亙リ帝國ト密ニ提携協力スベキコトヲ期待ス

第四、對米英宣戰及戰時態勢確立ニ就テ

新「ビルマ」國ハ獨立ト同時ニ米英ニ對シ宣戰スルト共ニ速ニ戰時ニ卽應スル諸般ノ態勢ヲ整備シ以テ帝國ト緊密一體戰爭完遂ニ邁進センコトヲ切望ス

第五、軍事ニ就テ

新「ビルマ」國ハ作戰上ノ要請ニ鑑ミ軍事上帝國ト完全ニ協力シ帝國軍隊ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スルト共ニ「ビルマ」國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ付在緬帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ニ服セシメンコトヲ望ム

第六、經濟ニ就テ

新「ビルマ」國ノ經濟ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ其ノ主權ノ下ニ於テ公正潑溂タル活動ニ依リ之ガ振興ヲ期セラレ度帝國ハ之ニ所要ノ援助ヲ與フルノ用意ヲ有ス

而シテ戰爭遂行上必要ナルモノニ付テハ帝國ノ施策ニ特ニ順應スルノ措置ヲ講ゼンコトヲ望ム

第七、獨立ノ準備ニ就テ

以上ノ諸點ヲ了承シ新「ビルマ」國ノ首班タルベキ貴下ハ速ニ獨立準備委員會ヲ設ケ獨立ニ關スル諸般ノ準備ヲ進メンコトヲ望ム

而シテ獨立ノ時期ハ八月前後ト豫定シ之ガ準備ハ概ネ六月末迄ニ完了スベキヲ希望ス

尚細部ニ關シテハ現地軍司令官ヨリ承知セラレ度

惟フニ一國ノ創成ハ容易ノ業ニ非ズト雖モ「ビルマ」民衆一千餘萬ノ熱望ハ必ズヤ之ヲ玉成スベク之ガ指導ノ重責ヲ双肩ニ擔フ貴下等ノ本懷又之ニ過グルモノナカラン

宜シク帝國ノ意圖スル所ヲ體シ有ユル障碍ヲ克服シ以テ建國ノ偉業ヲ完成シ相携ヘテ戰爭完遂、大東亞ノ新秩序建設ニ邁進セラレンコトヲ切望シテ止マズ

昭和十八年三月二十二日

大日本帝國內閣總理大臣　東條　英機（署名）

別紙第二

（譯　文）

閣下

余ハ「ビルマ」及其ノ獨立ニ付閣下ガ只今述ベラレタル御聲明ヲ深キ感謝ノ念ヲ以テ拜聽セリ、閣下ガ曩ニ帝國議會ニ於テ我々ニ「ビルマ」獨立ノ約ヲ與ヘラレテ以來全「ビルマ」民衆ノ歡喜ト感謝ハ譬フルニモノ無キ有樣ナリキ、之ハ單ニ歡喜ト感謝ノ念タルニ止マラズ、信頼ノ念ナリ

日本ノ指導ハ東亞ノ開放ヲ齎ストノ大ナル信頼ノ念ナリ、更ニ感謝ト信頼ニ加フルニ「ビルマ」民衆ハ日本ガ東亞ノ再建ノ偉業ニ當リ示シタル現實主義ニ共鳴シ居ルモノナルコトヲ附言致度シ只今閣下ハ自ラ余ニ大ナル責任ヲ課セラレタリ、余ハ之ヲ大ナル名譽ト考フ、余ハ微力ヲ盡シテ其ノ負託ニ添ハンコトヲ期ス、又余ハ閣下ノ聲明ヲ上述ノ感謝及信頼ノ念ヲ以テ了解スルニ全力ヲ盡スベシ

終ニ「ビルマ」全民衆ガ閣下ニ對シテ有スル厚キ尊敬ト信頼ノ念ヲ披瀝スルヲ誠ニ欣快トスルモノナリ

附屬第五

（譯　文）

閣下

余ハ「ビルマ」及其ノ獨立ニ付閣下ガ只今述ベラレタル御聲明ヲ深キ感謝ノ念ヲ以テ拜聽セリ、閣下ガ曩ニ帝國議會ニ於テ我々ニ「ビルマ」獨立ノ約ヲ與ヘラレテ以來全「ビルマ」民衆ノ歡喜ト感謝ハ譬フルニモノ無キ有樣ナリキ、之ハ單ニ歡喜ト感謝ノ念タルニ止マラズ信賴ノ念ナリ

日本ノ指導ハ東亞ノ開放ヲ齎ストノ大ナル信賴ノ念ナリ、更ニ感謝ト信賴ニ加フルニ「ビルマ」民衆ハ日本ガ東亞ノ再建ノ偉業ニ當リ示シタル現實主義ニ共鳴シ居ルモノナルコトヲ附言致度シ只今閣下ハ自ラ余ニ大ナル責任ヲ課セラレタリ、余ハ之ヲ大ナル名譽ト考フ、余ハ微力ヲ盡シテ其ノ負託ニ添ハンコトヲ期ス、又余ハ閣下ノ聲明ヲ上述ノ感謝及信賴ノ念ヲ以テ了解スルニ全力ヲ盡スベシ

終ニ「ビルマ」全民衆ガ閣下ニ對シテ有スル厚キ尊敬ト信賴ノ念ヲ披瀝スルヲ誠ニ欣快トスルモノナリ

附屬第六

六、「ビルマ」獨立指導ニ關スル電報

（昭和一八年六月一五日）

六月十一日獨立準備委員會ヨリ國家機構ニ關スル答申案ヲ提出シ來レリ其ノ要旨左ノ如シ

一、國家

「ビルマ」ハ完全ナル主權國ニシテ大東亞共榮圈ヲ構成スル各國ト同等權利ヲ有シ又國家ノ總テノ權能卽チ立法司法行

政ハ民意ニ依ルモノトス

二、國家代表（「ヘッド、オブ、ザ、ステート」）

「ビルマ」ハ完全ナル主權竝ニ權能ヲ有スル國家代表ニ依リ統治セラル

三、內閣

內閣ハ總理大臣ヲ主班トスル各省大臣ヲ置キ各省大臣ハ總理大臣ノ推薦ニ依リ國家代表之ヲ任命シ內閣ハ全體トシテ又各大臣ハ個別的ニ國家代表ニ責任ヲトル

四、樞密院

樞密院ハ租稅、豫算、國債、普通立法、條約ノ締結等ニ關シ國家代表ノ諮問機關トス

其ノ顧問官ノ數ハ二〇乃至二五名トシ國家代表ハ內閣ニ諮リタル後任命ス

內閣ノ各大臣ハ顧問官タラズシテ同院ノ議ニ列ス

五、立法

立法權ハ國家代表ニ屬シ內閣ハ普通立法ニ關シテハ樞密院ノ諮問ヲ經タル後又非常立法ニ關シテハ直接國家代表ニ上申ス

六、司法

司法機關ハ概ネ現狀ノ通トシ裁判權ハ外交官等ノ國際法上ノ治外法權ヲ除キ一般ニ之ヲ施行ス

七、國語

「ビルマ」語ハ新「ビルマ」國ノ公用語タルベシ

八、官吏ノ任用

官吏ノ任免權ハ國家代表之ヲ有シ官吏任用委員會ヲ置キ諮問ス

九、會計檢査

國家代表直屬ノ會計檢査院ヲ置キ會計ノ疑義ヲ匡ス

十、軍

「ビルマ」軍ハ國家代表ニ隷シ軍事ニ關スル諮問機關トシテ最高軍事會議ヲ置ク

其ノ議員ハ陸軍大臣、參謀總長、陸軍次官、軍務局長、教育部長等ニ依リ構成セラル

陸軍大臣ハ現役將校ヲ以テ充當ス又軍ハ政治ニ干與セズ

十一、憲法起草委員會

國家代表ハ戰爭狀態之ヲ許サバ獨立後一箇年以內ニ又之ヲ許サザレバ戰爭終了後一箇年以內ニ憲法起草委員會ヲ召集ス

右ノ委員ハ內閣及樞密院ニ諮リ「ビルマ」民衆ヲ代表スルモノヲ網羅シテ國家代表之ヲ任命スルモノニシテ憲法ノ起草ニ任ジ且其ノ施行ノ時期ヲ定ム

新「ビルマ」國ノ統治ハ憲法施行ニ至ル迄本要綱ノ定ムル所ニ依ル

附屬第七

七、日本國「ビルマ」國間同盟條約

大日本帝國政府及

「ビルマ」國政府ハ

日本國政府ガ「ビルマ」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ

兩國ハ相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ各國ト緊密ニ協力シテ道義ニ基キ大東亞ニ於ケル共同ノ建設ヲ行ヒ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ

之ガ障碍タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及「ビルマ」國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上有ラユル協力ヲ爲スベシ

第二條

日本國及「ビルマ」國ハ大東亞各國ノ共榮ヲ趣旨トスル自主的發展及大東亞興隆ノタメノ共同ノ建設ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ

第三條

本條約ノ實施ニ關スル細目ハ必要ニ應ジ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第四條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和　　年　　月　　日卽チ　　年　　月　　日　　ニ於テ本書二通ヲ作成ス

附屬第八

八、「ビルマ」紀元千三百五年法律第一號

（昭和一八年八月四日森集團司令部譯陸軍省複寫）

「ビルマ」政府ノ組織ヲ制定スベキ法律

「ビルマ」獨立準備委員會ノ委員長及委員ハ基本法制定議會トシテ集合シ是ニ由ツテ「ビルマ」人民ヲ代表シ之等人民ニ屬スル立法ノ主權ヲ行使シテ玆ニ左ノ通リ制定布告ス

左記明細書ニ示サレタル組織ハ「ビルマ」政府ノ基本トス

明細書

國家

第一條　「ビルマ」ハ主權ヲ有スル完全ナル獨立國家タルベキモノトス

第二條　「ビルマ」ハ大東亞共榮圈ヲ構成スル他ノ主權國家ト對等ナル一員タルモノトス

第三條　立法、行政及司法ニ關スル政府ノ總テノ權能ハ人民ヨリ出ヅルモノニシテ次ニ定ムル規定ニヨリ行使セラルルモノトス

國家代表

第四條　「ビルマ」ハ完全ナル主權者タルノ地位ト權能トヲ有スル國家代表ニ依リ統治セラルベキモノトス

第五條　新憲法ノ效力ヲ發生スル以前ニ於テハ國家代表ノ地位ノ繼承ハ可能ナル限リ空席ヲ生ジタル後三十日以內ニ內閣及樞密院ノ合同會議ノ選擧ニヨリ決定セラルベキモノトス合同會議ハ樞密院議長若クハ副議長ニヨリ司會セラルベク兩者不在ノ場合ニ於テハ司會ノ目的ヲ以テ樞密院ニ依リ選擧セラレタル其ノ一員ニ依ツテ司會セラルベキモノトス

內閣

第六條　總理大臣ニ依ツテ統轄セラルル內閣ヲ置ク

第七條　大臣ハ總理大臣ノ推薦ニ基キ國家代表ニ依ツテ任命セラルベキモノトス

第八條　內閣ハ政務ヲ處理シ連體的及個別的ニ國家代表ニ對シ其ノ責ニ任ズ

第九條　大臣ハ國家代表ノ信任アル間在職スベシ

第十條　政務ハ其ノ目的ノ爲ニ制定セラレタル規則ニ依リ之ヲ行フモノトス

樞密院

第十一條　公ノ重要事項ニ關シ國家代表ノ諮問ニ答ヘル爲樞密院ヲ置ク左記ノ事項ハ之ヲ樞密院ニ回附スルモノトス

イ、租稅

ロ、豫算

ハ、國債

ニ、通常立法

ホ、平和條約及締結前批准ヲ必要トスル假條約及協定

第十二條　樞密顧問官ノ定員ハ二十名乃至二十五名トス

第十三條　樞密院ハ諮問機關トス

第十四條　樞密顧問官ハ內閣ニ諮問シタル後國家代表之ヲ任命ス

第十五條　各大臣ハ樞密顧問官ト爲サザルモ樞密院會議ニ參加スルコトヲ得

第十六條　樞密院ニハ顧問官ニ依ツテ選擧セラレタル議長一名及副議長一名ヲ置ク

第十七條　顧問官ノ資格ハ「元老」的資格タルモノトス

イ、最低年齡四十歲

ロ、國家ニ對シ功績アルモノ又ハ特殊ノ資格技能ヲ有シ國家ノ重要面ヲ代表シ得ル能力アル者

第十八條　樞密院ハ國家代表ノ同意ヲ得テ其ノ議事及事務ノ執行ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

立法

第十九條　立法ノ責任ハ國家代表ニ屬シ通常內閣ニ諮問シタル後之ヲ行フモノトス

第二十條　通常立法ノ場合ニ於テハ內閣ハ國家代表ニ意見ヲ具申スルニ先立チ樞密院ニ諮ルモノトス

第二十一條　非常立法ノ場合ニ於テハ內閣ハ樞密院ノ議ヲ經ズシテ之ヲ行フモノトス

註　非常立法トハ公安ノ維持、公共災害ノ回避又ハ戰爭ニ必要ナル重要事項ニ關スルモノヲ意味ス

第二十二條　國民ノ自由ヲ拘束スル總テノ非常立法ハ戰爭終結後成ルベク速カニ之ヲ再檢討スルモノトス

第二十三條　本法施行前「ビルマ」ニ行ハルル總テノ現行法ハ本法ニ抵觸セザル限リ權限アル官憲ニ依リ變更又ハ修正セラルルニ至ル迄其ノ效力ヲ有ス

「ビルマ」國民ノ基本的權利

第二十四條　人民ノ自由ハ侵スベカラザルモノニシテ「ビルマ」國民ハ法律ニ依ルニアラザレバ其ノ自由ヲ剝奪セラルルコトナシ

第二十五條　「ビルマ」國民ハ法律ニ依ルニアラザレバ其ノ財產ヲ剝奪セラルルコトナシ

第二十六條　「ビルマ」國民ノ住居ハ侵スベカラザルモノニシテ法律ニ依ルニアラザレバ無理ニ之ニ侵入スルコトヲ得ズ

第二十七條　「ビルマ」國民ハ公共ノ秩序竝ニ道德ニ反セザル限リ宗教上ノ信仰竝ニ儀式ノ自由ヲ有ス

第二十八條　「ビルマ」國民ハ法律及道德ノ範圍內ニ於テ意見ヲ自由ニ表明スルノ權利、武器ヲ有セズシテ平穩ニ會合スルノ權利及協會又ハ組合ヲ組織スルノ權利ヲ有スルモノトス

司法

第二十九條　現存「ビルマ」最高法院ハ之ヲ存續セシメ最高ノ記錄法院タルモノトス最高法院ハ一名ノ法院長及國家代表ガ必要ト認ムル數ノ判事ヲ任命シテ構成スルモノトス

第三十條　法及司法ノ運營竝ニ其ノ機構ハ現行法ニ依ルモノトス

第三十一條　(イ)最高法院長ハ總理大臣又ハ所轄大臣トノ協議ヲ經テ國家代表之ヲ任命ス

(ロ)其他ノ判事ハ總理大臣又ハ所轄大臣及法院長トノ協議ヲ經テ國家代表之ヲ任命ス

第三十二條　最高法院判事ハ證明セラレタル不行跡又ハ精神若ハ身體ノ衰弱ニ依ルノ外其ノ職ヲ免ゼラルルコトナシ

註　不行跡ハ國家ニ對スル不行跡ヲモ含ム

第三十三條　總テノ判事ハ司法機能ノ行使ニ當リ獨立シ且現行法ニノミ從フモノトス

第三十四條　最高法院ノ判決ハ總テノ事件ニ於テ終審タルモノトス

第三十五條　判事及刑事審判官ハ左ニ掲グルモノヲ除クノ外國籍ノ如何ヲ問ハズ其ノ管轄地域内ニアル總テノ人ニ對シ裁判權ヲ行フモノトス

(イ)國際公法ノ下ニ治外法權ヲ享有スルモノ

(ロ)「ビルマ」軍ノ軍人ニシテ軍律會議ニ依リ處罰シ得ル罪ニ關スルモノ

(ハ)聯合軍軍人ニシテ其ノ軍律違反ノ裁判ニ就キ日緬兩政府間ノ條約乃至協定ニ依リ別ニ規律セラレアル者

國語

第三十六條　新「ビルマ」國ノ公用語ハ「ビルマ」語トス

官吏

第三十七條　國家ノ官吏ノ任命ハ總ベテ國家代表之ヲ行フモノトス

第三十八條　官吏任用委員會ヲ置キ其ノ委員長及委員ハ内閣ノ意見ヲ徵シテ國家代表之ヲ任命ス

第三十九條　國家代表ハ内閣ノ意見ヲ徵シテ定メラレタル規定ニ依リ官吏任用委員會ノ委員數、任期及執務規則ヲ決定スルモノトス

第四十條　同委員會ハ國家代表ニ對シ其ノ責ニ任ズルモノトス

第四十一條　同委員會ハ其ノ目的ノ爲ニ定メラレタル規定ニ依リ委囑セラレタル官吏任用事項ヲ處理ス

第四十二條　同委員會ハ其ノ適切ナル機能ノ行使及義務ノ遂行ニ當リ獨立セルモノトス

第四十三條　獨立宣言ノ當日官吏又ハ公吏タル總テノ「ビルマ」人ハ獨立宣言後國家代表ニ依リテ定メラレタル日ニ新國

家ニ對シ忠誠ヲ誓フ場合ニノミ從來ト同一ノ條件及狀態ニテ新國家ノ官吏又ハ公吏ニ任命セラレタルモノト認ム

會計及會計檢査

第四十四條　「ビルマ」會計檢査院長ヲ置ク國家代表ハ總理大臣若クハ所轄大臣ノ意見ヲ徵シタル後之ヲ任命スルモノトス

第四十五條　會計檢査院長ノ服務規定ハ總理大臣若クハ所轄大臣ノ意見ヲ徵シタル後國家代表之ヲ定ム而シテ同院長ハ其ノ職ヲ辭シタル後國家代表ノ許可ナクシテ「ビルマ」ノ他ノ官職ニ就クコト能ハザルモノトス

第四十六條　「ビルマ」國政府ノ會計ハ國家代表ノ認可ヲ得テ檢査院長ノ定メタル形式ニ依リ行ハルルモノトス

第四十七條　「ビルマ」國政府ノ會計ニ關スル檢査院長ノ報告書ハ國家代表ニ提出サレ國家代表ハ之ヲ內閣及樞密院ニ提示スルモノトス

軍

第四十八條　國家代表ハ「ビルマ」軍ノ最高指揮官タルモノトス

第四十九條　軍隊ノ編成、軍政及訓練ニ關シ國家代表ニ對シ直接ノ責ニ任ズル國防大臣ヲ置ク

第五十條　國家代表ハ國防大臣ノ推薦ニ依リ「ビルマ」軍將校ノ任用ヲ行フモノトス

第五十一條　最高軍事會議ハ軍事ニ關スル總テノ事項ニ付最高指揮官ニ意見ヲ具申スルモノトス最高軍事會議ハ國防大臣、參謀部長（譯者註　海軍設置ノ場合ハ軍令部長ヲ含ム）、國防次官、國防省軍務局長及教育部長及ビ最高軍事會議ニ依リ追加セラルベキ軍人ニ依リ組織ス總理大臣又ハ總理大臣ヲ代理スル大臣、大藏大臣、樞密院議長又ハ副議長ハ最高軍事會議ニ於テ發言シ又ハ之ニ參加スルノ權利ヲ有スルモ議決權ヲ有セズ

第五十二條　參謀部長又ハ軍令部長ハ夫々ソノ率ヰル軍ニ付最高指揮官ニ對シ其ノ責ニ任ズ

第五十三條　國防大臣ハ參謀部若クハ軍令部及夫々ノ隸下部隊及他ノ部隊ヲ檢閲スルノ權能ヲ有ス

第五十四條　㈠國家ノ安寧ヲ保持スル爲軍隊ハ政治ノ埒外ニ置クモノトス　㈡國防大臣ハ常ニ現役高級將校中ヨリ之ヲ任

命スルモノトス

第五十五條　軍事會計ハ國家代表直屬ノ特別ノ會計檢査局ノ檢査ヲ受クルモノトス

憲法制定委員會

第五十六條　憲法制定委員會ハ戰爭狀態之ヲ許ス場合「ビルマ」獨立開始後一ケ年以內又ハ如何ナル場合ニ於テモ戰爭終結後一ケ年以內ニ國家代表之ヲ召集スルモノトス

第五十七條　憲法制定委員會ハ「ビルマ」國民及其ノ民意ヲ眞ニ代表スル如ク組織セラルベキモノトス

第五十八條　國家代表ハ右委員會ノ委員ヲ任命シ內閣及樞密院ノ意見ヲ徵シタル上委員會ニ關スル他ノ總テノ事項ヲ處理スルモノトス

註　「意見ヲ徵シタル上」ハ「意見ヲ徵シタル後」ニ同ジキモヨリ行屆キタル相談及相互的相談ヲ爲スコトヲ除クモノナリ

第五十九條　委員會ハ其ノ委員長ヲ選擧シ且其ノ事務及議事手續ニ關スル規則ヲ設クルモノトス

第六十條　委員會ハ獨立「ビルマ」國ノ憲法ニ關スル總テノ事項ヲ決定スルモノトス其ノ決定ニ當リテハ憲法制定委員會トシテノ總テノ權能及義務ヲ有スルト共ニ國家ノ元首ニ關シテ國民投票ヲ行フ權能ヲモ含メ有スルモノトス委員會ハ外部ヨリノ影響ニ左右セラルルコトナク獨立シテ行動スルノ自由ヲ有ス

第六十一條　委員會ハ言論ノ自有ヲ(由カ)有シ委員ハ委員會若クハ小委員會ニ於ケル發言又ハ投票ニ關シ訴訟ヲ受クルコトナク且國家代表ノ命ニ依ル報告書、書類、投票若クハ議事ノ刊行ニ關シテハ何人ト雖モ訴訟ヲ受クルコトナシ

第六十二條　委員會ハ新憲法ノ施行及新元首ノ統治開始ノ時期ヲ決定スルモノトス

第六十三條　國家代表ノ統治ハ新憲法ノ施行ト同時ニ終結スルモノトス內閣閣員及樞密顧問官ノ任期モ同樣ニ終結スルモノトス

第六十四條　新「ビルマ」國ハ前數條ノ下ニ新憲法ノ施行ニ至ル迄ノ間本基本法ニ依リ統治セラルルモノトス

本基本法ハ㈠內閣及㈡當分ノ間樞密顧問官全部ノ四分ノ三以上ノ出席セル樞密院ノ特別會議ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依ル立法ニ依ツテ修正セラルベキモノト定ム

附屬第九

九、東條總理大臣內奏資料拔萃

私ハ「バー・モウ」長官ト昭南ニ於テ會見致シマシタル際篤ト「ビルマ」獨立ニ關スル帝國ノ公明正大ナル所信ヲ披瀝シ獨立準備ノ速ニ完成セラレンコトヲ要望シ特ニ帝國ハ新「ビルマ」ガ完全ナル獨立國家タルベキヲ祈念シアルヲ述ベ新「ビルマ」獨立完成ノ爲ニハ大東亞ノ諸民族ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放發展セシメントスル今次戰爭ノ完勝ヲ前提トシ戰ニ勝ツ日コソ新「ビルマ」建國完成ノ日ナルコトヲ力說スルト共ニ帝國ハ新「ビルマ」獨立ヲ確認シタ曉ニ於テハ適當ナル時機ニ「ケントン」、「モンパン」二州ヲ除ク「シヤン」、「カレンニ」地區ヲ「ビルマ」側ニ編入ヲ考慮シアルコトヲ言明シタノデアリマス

右ニ對シ「バー・モウ」ハ「ケントン」、「モンパン」二州ハ如何ニ處理セラルルヤト質問致シマシタノデ泰國ニ與フル旨ヲ答ヘ尙私ハ此ノ地方ハ泰軍ノ作戰地ナルコト及泰國ガ開戰以來帝國ニ協力シアル事實ニ鑑ミ帝國トシテハ泰國ニ報ユルノ必要ヲ說明致シマシタ所「バー・モウ」ハ帝國ノ眞意ヲ十分諒解致シタ樣デアリマシタ尙「バー・モウ」ガ後デ同行セル磯村參謀副長ニ洩シタ所ニ依リマスト「ケントン」、「モンパン」二州ヲ泰國ノ領土ニ編入スルコトトセラレタル日本ノ意圖ヲ獨立準備委員等ニ諒解セシムルコトハ可能ナルモ「ビルマ」民衆ニ了解セシムル爲ニハ相當ノ工夫ヲ要スベシトノコトデアリマシタ

從ヒマシテ「ケントン」、「モンパン」二州ノ泰國編入問題ハ多少「ビルマ」側ニ失望ヲ與フルコトハ豫期セル所デアリ又

之ガ善後處置ハ今後モ十分注意ヲ要スルト考ヘテ居リマスガ之ガ爲「ビルマ」獨立運動ニ大ナル支障ヲ來スガ如キコトハアルマイト存ジマス。尙「バー・モウ」ハ帝國ノ眞意ヲ能ク諒解スルト共ニ「ビルマ」ノ現狀ヲ說明シ彼ハ「ビルマ」民衆ノ生活ヲ安定シ其ノ民心ヲ把握スルコトニ日夜苦慮シアルヲ以テ援助ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル旨申述ベタノデアリマス

附屬第一〇

一〇、「シヤン」州等ノ歸屬ニ關スル件

（昭和十八年九月十八日大本營政府連絡會議決定）

「ケントン」州及「モンパン」州以外ノ「シヤン」諸州「カレンニ」州竝ニ「ワー」州ハ將來「ビルマ」國ニ編入スル帝國政府ノ意圖ヲ速ニ示達ス

一方爲シ得ル限リ九月二十五日迄ニ條約ヲ締結シ得ル樣至急措置ス

附屬第一一

一一、「シヤン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ關スル日本國「ビルマ」國間條約

大日本帝國政府及「ビルマ」國政府ハ

兩國緊密ニ協力シテ米英兩國ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂シ道義ニ基ク大東亞ヲ建設スルノ不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條　日本國ハ「ビルマ」國ガ「ケントン」及「モンパン」兩州以外ノ「シヤン」諸州、「カレンニ」諸州竝ニ「ワー」地方ヲ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認ス

第二條　日本國ハ本條約實施ノ日ヨリ九十日以内ニ前條ノ規定スル地域ニ於テ現ニ其ノ行フ行政ヲ終止スベシ

第三條　本條約實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第四條　本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年九月二十五日卽チ「ビルマ」曆千三百五年「トウザリン」月下弦十二日「ラングーン」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使　澤田　廉三（印）

「ビルマ」國內閣總理大臣　バー・モウ（印）

第二部　「フイリピン」國獨立

一、「フイリピン」國獨立經緯

一、今次戰爭勃發ト共ニ我ガ比島作戰ハ當初極メテ迅速ニ進捗シ米比軍側ガ「マニラ」市ノ無防禦都市ヲ宣言セル關係モアリ昭和十七年一月三日ニ至リ早クモ「マニラ」ニ無血入城ヲ行フニ至リ同日ヲ以テ全「フイリピン」ニ軍政ヲ施行スル旨ノ宣言ヲ布告セリ而シテ主トシテ「フイリピン」人ニ關スル行政事項ハ之ヲ「フイリピン」人ノ手ニ依リ行ハシムルノ方針ノ下ニ軍司令官ノ下ニ軍政監部ノ一部門トシテ比島行政府ヲ設置スルコトトシ同年一月二十六日ニ至リ「ホルヘ・ビー・バルガス」ヲ長トシテ新比島行政府成立セリ「バルガス」ハ「ケソン」大統領ノ腹心ニシテ其ノ内閣書記官長ノ地位ニ在リ「ケソン」大統領「マニラ」ヲ去ルニ臨ミ我軍ノ進擊ニ伴フ混亂セル時局ノ拾收ニ當ラシムル爲其ノ才能ニ信賴シテ特ニ大「マニラ」市長ノ職ヲ與ヘ殘留セシメタル人物ニシテ我軍ノ「マニラ」入城ト共ニ右「ケソン」ノ意ヲ體シ日本軍占領地域ニ於ケル時局拾收ノ爲獻身的努力ヲ爲シツツアリタリ而シテ當時日本軍ハ「コレヒドール」ニ在リタル「ケソン」ノ歸來ヲ希念シ種々工作中ナリシ關係モアリ「マニラ」ニ殘留セル比島要人中ニハ「バルガス」ヨリ先輩ト目スベキ人物多々アリシニモ不拘「ケソン」ノ意志ヲ忖度シテ「バルガス」ヲ行政府長官ニ起用セル趣ナリ

右行政府ニハ「バルガス」長官ノ下ニ內務、財務、司法、農商、敎育、厚生及土木、交通ノ六部（ママ）ヲ設ケ各部長官ニハ夫々殘留要人中一流人物ヲ糾合シテ施政ノ任ニ當ラシメタリ別ニ又比島參議院ヲ置キ鍊達堪能ノ士ヲ集メテ行政府ノ諮詢機關タラシメ「バルガス」長官其ノ議長ヲ兼ネタリ

二、「フイリピン」ニ於テハ從來政黨間ノ對立抗爭ハ頗ル激甚ナリシガ今次戰爭前一部少數黨ヲ除キテハ概ネ統一セラレアリシモ尙從來ノ黨派ニ基ク暗鬪ハ依然其ノ跡ヲ絕タズ現地日本軍ハ占領當初治安等ノ關係ヲ顧慮シ一切政黨ノ存在ヲ認メザル方針ヲ堅持シ來レルモ比島人間ノ事實上ノ政爭ハ依然タルモノアリ軍政ノ滲透ヲ推進スル上ニ極メテ困難ナル

問題ヲ呈シツツアリタリ然ルニ昭和十七年十二月四日各政黨ハ自發的ニ之ガ解黨ヲ聲明シ同時ニ國民體制ノ整備强化ヲ圖ル目的ヲ以テ思想團體タル比島再建奉仕團(カリバピ)ヲ結成スルコトトシ「バルガス」行政府長官ヲ總裁ニ推シ「ペニグノ・エス・アキノ」副總裁兼事務總長ニ就任シテ事實上ノ指揮者トナリ十二月八日「マニラ」ニ於テ結團式ヲ擧行セリ斯クテ「カリバピ」ハ一應國民各階層ヲ網羅スル組織トシテ結成セラレ大東亞新秩序建設ノ理想ノ下新比島ヲ建設スルノ大目的ヲ揭ゲ國民ノ啓發指導全比島民衆ノ結集ノ爲努力ヲ效シ來レリ

「カリバピ」ノ結成ニ付我方出先軍當局ガ內面如何ナル程度迄關與セルヤ明ナラザルモ寧ロ我方ノ意ニ迎合セントスル比島側指導者ノ自發的行動ト解セラレ少クトモ我方ニ於テ特ニ之ヲ强制乃至ハ要求セル事實ナシ素ヨリ如斯單一ノ組織ノ結成ニ依リ從來ノ政爭解消シ右ノ如キ理想ノ下ニ比島民衆ノ結集啓發ノ努力ノ行ハルルコトトナリタルハ現地日本軍トシテモ大イニ歡迎スル所ニシテ其ノ活動ニ對シテハ全幅ノ支持ヲ與ヘタルハ事實ナリ

三、之ヨリ先昭和十七年一月東條內閣總理大臣ハ第七十九議會ノ壇上ニ於テ今次大戰ニ於ケル帝國ノ意圖ガ斷ジテ單ナル侵略ヲ目的ニスルモノニ非ル旨ヲ强調シ「フイリピン」ニ關シテハ「比島民衆ニシテ帝國ノ眞意ヲ諒解シ大東亞共榮圈ノ一翼トシテ帝國ニ協力ヲ吝シマザルニ於テハ獨立ノ榮譽ヲ與フル」モノナル旨ヲ聲明シ比島ハ固ヨリ大東亞各地域ニ相當ノ反響ヲ呼ビ起シタリ超エテ昭和十八年一月四日大本營政府連絡會議ニ於テ「占領地歸屬腹案」ヲ決定シ「フイリピン」ハ之ヲ獨立セシムルコトヲ確定セリ依ツテ東條首相ハ同月第八十一議會ニ於ケル施政方針ノ演說ニ於テ第七十九議會ニ於テ聲明セル所ヲ改メテ確認シ同年六月ノ第八十二臨時議會ニ於テハ東條首相ハ三度比島問題ニ言及シ「其ノ後ニ於ケル比島ノ現狀ハ國民ノ意識ニ於テ又其ノ我國ニ對スル協力ノ實情ニ於テ洵ニ見ルベキモノアルヲ以テ之ニ獨立ノ榮譽ヲ與フ」ベキ旨ヲ言明シ玆ニ比島ノ獨立ハ愈々具體化セラルル運ビトナレリ

四、右ニ先チ昭和十八年五月三十一日ノ御前會議ニ於テ大東亞政略指導大綱決定セラレ對「フイリピン」方策トシテ左ノ通定メラレタリ

「成ルベク速ニ獨立セシム獨立ノ時機ハ概ネ十月頃ト豫定シ極力諸準備ヲ促進ス」

右ニ基キ軍部竝ニ關係各省間ニ鋭意獨立ノ基本的準備ニ關シ研究ヲ重ネ六月二十六日ニ至リ大本營政府連絡會議ニ於テ比島獨立指導要綱ノ決定ヲ見タリ（附屬第一）右指導要綱ノ決定ニ當リテハ「ビルマ」ノ場合ト同ジク之ガ獨立ヲ全然比島側ノ自由ニ一任スベキヤ或ハ我方ノ意思ヲ强力ニ反映セシムベキヤニ付議論アリタリ、比島ノ場合ニ於テハ既ニ米國ヨリ「タイデイングス・マクダフイ法」ニ基キ一九四六年ヲ期シテ獨立ヲ約束セラレアル關係モアリ右ト比較シテ獨立ノ内容ニ餘リニ强ク我方ノ意思ヲ反映セシムレバ獨立ノ效果ヲ著シク減殺スルノミナラズ寧ロ逆效果ヲ生ズルノ惧多分ニアルヲ以テ獨立ノ内容ハ飽ク迄比島民衆ノ創意ニ基ク完全ニ自由ナルモノタラシムベシトノ意見相當ニ有力ナリシモ一方ニハ「デモクラシー」ノ排擊乃至ハ所謂新國家ノ東亞的性格ニ關スル議論亦頗ル强ク右指導要綱ハ以上兩者ノ妥協トシテ寧ロ後者ノ意見ヲ多分ニ盛リテ（若クハ少クトモ後者ノ意見ヲ「アピーズ」スル如キ字句ヲ盛リテ）決定セラレタルモノト云フコトヲ得ベシ卽チ「八紘爲宇ノ大理想ノ下ニ大東亞共榮圈ノ一環トシテ新生「フイリピン」國ノ生成ヲ圖ル」コトヲ大前提トシ現比島行政府ヲ刷新强化シテ新政府ノ母體タラシムルコト獨立ノ時期ヲ概ネ昭和十八年十月頃ト豫定スルコト等ヲ決定シ更ニ新國家ノ基本的構成、獨立後ノ日比間ノ基本的形態等ニ關シ附屬別冊ニ其ノ大綱ヲ規定セリ右ノ内「ミンダナオ」島ニ關シテハ特別ナル規定ヲ設ケラレタルモ右ハ「フイリピン」國内ノ一部ニ特殊地帶ヲ設定セントスルノ趣旨ニハ非ズシテ同島ノ有スル軍事上經濟上ノ重要性ニ鑑ミ軍事上經濟上必要ナル要請ニ關シ他ノ地域ト異ル個々ノ具體的ナル措置ヲ採ルベキコトアルヲ豫想セルモノナリトス

尙獨立ノ曉ニ於テハ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシムル如ク規定セラレアル處比島ノ有スル作戰上ノ重要性ニ鑑ミ比島側指導ハ現地陸軍側ニ於テ一元的ニ把握スルヲ要ストノ陸軍側ノ强キ主張アリ「ビルマ」ノ場合ニ於ケルト同樣現地ニ於テハ軍側及大使館側ノ業務ノ分擔ヲ如何ニ決定スベキカノ問題ヲ生ジ關係各省間ニ於テ研究ノ結果内閣、陸軍、海軍、外務、大東亞各省間ニ「比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ」ヲ決定セリ本申合セヲ「ビルマ」ノ場

合ニ比較スレバ大使館ノ分擔スベキ業務中獨立ト共ニ移行スベキモノノ内ニ「政務ニ關スル交渉」ヲ含ム點ニ於テ多少其ノ範圍ヲ擴張セラレタリ

五、昭和十八年十月頃ヲ以テ「フイリピン」國ヲ獨立セシムベキ帝國ノ根本方針決定セラルルヤ現地軍ハ直チニ之ガ準備ニ着手シ先ヅ第一ニ軍令ヲ以テ獨立準備委員會ノ結成ヲ命令セリ斯クテ六月二十日比島獨立準備委員會ハ新比島再建奉仕團ヲ母體トシテ結成セラレ「ホセ・ペ・ラウレル」ヲ委員長トシテ着々獨立ノ準備ヲ進ムルコトトナレリ前述ノ如ク現地軍ガ行政府長官トシテ「バルガス」ヲ選ビタルハ主トシテ「ケソン」關係ヲ考慮シタル爲ナル處其ノ關係ハ既ニ考慮ヲ要セザル事態トナリタル一方比島殘留要人間ノ思潮ヨリシテ比島政界ニ於テ極メテ廉潔ナル人格者トシテ重キヲナセル「ラウレル」ガ將來ノ新政府ノ首班トシテ期待セラレ居ルコトヲ察知シ之ヲ獨立準備委員長ニ選任セル次第ナリ而シテ現地軍ハ中央ニ於テ決定ヲ見タル比島獨立指導要綱ニ基キ七月二日「ラウレル」委員長ニ對シ獨立ニ關スル根本理念ノ示達ヲ行ヒ(附屬第二號)新比島建國ノ理念確立ノ必要及國家政治機構ノ强力簡素化ノ必要ニ關シ我方ノ要望ヲ傳ヘタル外ハ努メテ比島側ノ創意ヲ尊重スルノ態度ヲ以テ指導ニ當リ來レリ

六、現地軍ヨリノ示達ニ基キ獨立準備委員會ハ直チニ新憲法ノ制定ニ着手セリ卽チ憲法起草委員會ヲ設ケ行政、司法、立法及雜件ノ四分科會ニ分ケテ草案ヲ起草シ「ラウレル」委員長ノ意見ヲ加ヘ日本側現地軍ノ意嚮ヲモ參酌シテ八月中旬ニ至リ一草案作成セラレタリ(附屬第三)新憲法ハ素ヨリ「タイデイングス・マグダフイ」法ニ基ク舊憲法ヲ修正スルモノニハ非ズシテ比島人自ラ其ノ獨立ヲ宣言スル爲全然新タナル憲法ヲ起草決定スル建前ヲ採リタル次第ナルガ一般的ニ見テ比島人心ハ米國流ノ民主主義ヲ希望シ居ル實情ニシテ從ツテ憲法起草委員會モ舊憲法ヲ基礎トシ之ニ極メテ近似セル草案ヲ起草シタル次第ナリ右草案ノ起草ニ對シテハ日本側トシテ特ニ干渉シタルコトナク勿論日本側ノ一部ニハ斯ル米國流ノ憲法ヲ不可トスル議論アリ又比島人中ニ於テモ一八九八年ノ「マロルス」憲法ヲ基礎トスベシ等ノ意見ヲ有スルモノモアリタルモ如斯ハ却ツテ民心ヲ把握スル所以ニ非ズトノ觀點ヨリ起草委員會ハ支障ナキ限リ舊憲法ノ規定ヲ溫

存スルノ方針ヲ採リ殊ニ天然資源ヲ比島住民及其ノ子孫ニ保留スル規定ノ如キハ或意味ニ於テ將來ニ於ケル我ガ進出ヲ阻ムガ如キ規定ナレ共我方トシテハ戰爭中ノ特例ヲ認メシムルニ止メタリ

斯クテ決定セラレタル新憲法草案ハ一見極メテ舊憲法ニ近キモノノ如キモ左ノ諸點ニ於テ特長ヲ有ス卽チ

㈠前文ニ於テ舊憲法ニ於テハ「正義、自由及民主主義ノ施政」云々トアリタルヲ「平和、自由及道義ニ基キ世界新秩序ノ創造」云々ト定メ其ノ基本理念ヲ明カニシタルコト

㈡全體ノ配列ニ於テ舊憲法ハ「人權ノ宣言」、「市民權」、「選擧權」、「立法部」、「行政部」、「司法部」ノ順序トナリ居リタルヲ「行政部」、「立法部」、「司法部」ノ順ニ改メ行政部優位ノ思想ヲ表現スルト共ニ人民ノ義務ヲ强調シタルコト

㈢大統領ノ再拒否權或ハ緊急命令發布權ヲ認メル等實質的ニ行政權强化ニ付特別ノ配慮ヲ加ヘタルコト

右草案ハ九月初旬憲法承認ノ爲ノ「カリバピ」大會ニ於テ承認成立セリ（附屬第四）斯クテ右新憲法ノ規定ニ依ル選擧ノ結果「ラウレル」委員長新「フイリピン」國初代大統領タルベク決定セラレタリ

七、一方新「フイリピン」國ノ獨立ニ伴ヒ政治、經濟、軍事等各般ニ亙リ調整指導ヲ行フノ必要アルヲ以テ中央ニ於テハ關係各省協議ノ結果「比島獨立指導要綱ニ基ク現地指導ノ腹案」ヲ作成之ヲ現地軍ニ指示シ獨立ニ關スル具體的準備ヲ促進セシメタリ（附屬第五）

八、以上ノ如ク現地ニ於ケル獨立準備ハ着々進捗シ九月下旬ニ至リ準備概ネ整ヒタルヲ以テ「フイリピン」ニ對シ獨立ヲ許與セントスル我國ノ意思ヲ正式ニ示達スル爲「ラウレル」委員長以下ヲ帝國ニ招致セリ依ツテ「ラウレル」ハ「バルガス」及「アキノ」ト共ニ九月三十日「マニラ」ヲ出發シ翌十月一日入京二日東條內閣總理大臣ヲ訪問シテ茲ニ正式ノ示達（附屬第六號）ヲ受ケテ歸國シ最後ノ準備完成ヲ急グコトトナレリ

九、比島獨立ニ際シ我方ト新「フイリピン」國トノ間ニ締結セラルベキ條約ニ關シテハ我方ニ於テ中央及現地ニ於テ夫々研究ヲ進メ來レルガ右條約中ニ於ケル日比兩國ノ協力條項ヲ如何ニ規定スベキカハ頗ル機微ナル問題ヲ含ミ最後マデ論

議ノ焦點トナレリ卽チ比島ニ於ケル民心ノ動向ノ實情ハ必シモ我方ニ好シト云フコトヲ得ズ例ヘ我ガ方ニ積極的ニ反抗セズトスルモ我帝國ノ理想ニ共鳴シテ對米戰爭ヲ完遂セントスルガ如キ氣持ヲ有スルモノハ極メテ少數ニシテ多クハ米國ニ對シ感情的ニハ好意ヲ有シツツモ既ニ日本ノ勢力下ニ入リタル以上ハ之ト協力シテ平和ヲ獲得スルヲ可トスト云フガ如キ消極的ナル氣持ヲ有シツツアリ從ツテ初代大統領タルベク決定セル「ラウレル」ノ渡日ニ對シテハ多クノ比島人ハ「ラウレル」ガ日本ヨリ獨立ノ對價トシテ如何ナル約束ヲ結バシメラレテ歸リ來ルカト批判的ニ多大ノ關心ヲ以テ注目シツツアリ若シ强力ナル軍事的相互援助條約ノ如キモノヲ約束セシメラルルトセバ比島民心ハ「ラウレル」ヨリ離反スル惧アリ民心ノ收攬ハ極メテ困難トナルヲ豫想セラレタリ如斯事態ノ招來ハ條約締結ノ根本趣旨ニ反スルモノニシテ絕對ニ避ケザルベカラザルコト言ヲ俟タザル所ナルト共ニ一方他ノ大東亞地域諸國トハ滿洲國ヲ除キ凡テ同盟條約ヲ締結シ在ル現狀ニ鑑ミ「フイリピン」國ノミヲ例外トスルハ大局的ニ見テ許サレザル所ナリ斯クテ外務省、大東亞省、陸軍中央及現地軍ハ夫々獨自ノ案ヲ作成シテ研究折衝シアリシガ其ノ協力條項ニ關スル要旨ハ大略左ノ如シ

イ、外務省大東亞省案

「日比兩國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ」

ロ、陸軍省案

「日比兩國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、軍事上及經濟上凡ユル協力ヲ爲スベシ」

尙條約附屬諒解事項トシテ

右軍事上ノ協力ノ主タル態樣ヲ「フイリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與シ又兩國ハ「フイリピン」ノ防衞ニツキ相互ニ緊密ニ協力スベシト規定ス

ハ、陸軍現地案

「兩國ハ大東亞ノ建設及「フイリピン」防衞ノ爲凡ユル協力及支援ヲ爲スベシ」

卽チ陸軍省案ハ大東亞戰爭完遂ノ爲一切ノ協力ヲ約スル同盟條約ナルコトヲ明カニシ只右ノ內軍事的協力ニ關シテ「フイリピン」國ノ負擔スベキ部分ヲ條約附屬ノ諒解事項トシテ限定セントスルニアリ之ニ對シ他ハ何レモ大東亞戰爭完遂ナル語ヲ使用セズ軍事的協力ノ點ヲ表面ニ出サザルカ或ハ多少表面ニ現ハストスルモ比島防衞ノ爲ト限定スル等比島ニ於ケル民心ノ把握ニ努力セントシツツアルヲ看取セラル

右諸案ニ基キ種々研究ノ結果ハ最初外務、大東亞省案有力ナリシモ陸軍省案ヲ支持スル統帥方面ノ壓力頗ル强ク遂ニ一應陸軍省案ニ決定シ十月五日大本營政府連絡會議ニ於テ陸軍省案ニ基ク條約案ニ諒解ヲ與ヘラレタリ（附屬第七）

本案ニ基キ現地ニ於テ「ラウレル」委員長ト交渉セル處「フイリピン」側ハ左ノ三點ニツキ修正意見ヲ提出セリ卽チ

㈠第二條中「大東亞戰爭完遂ノ爲ニ」ハ「大東亞建設ノ爲ニ」ト改メ從ツテ第三條ヲ削除ス

㈡附屬諒解事項冒頭ノ「大東亞戰爭完遂ノ爲ニ」ヲ「大東亞建設ノ爲ニ」ト改ム

㈢附屬諒解事項中『「フイリピン」國ノ防衞ニ付』ヲ『「フイリピン」國ノ領土保全及獨立ヲ防護スル爲』ト改ム

而シテ右修正ノ理由トスル所ハ「フイリピン」側トシテハ本條約案ノ精神及實質ニハ何等異議ナク全幅的對日協力ヲ誓フモノナルモ「大東亞戰爭完遂」ノ如キ文字ハ徒ニ人心ヲ刺戟スル惧アルヲ以テ爲シ得ル限リ民衆及議會ノ受ケ入レ易キ文字ヲ用ヒ度且戰爭ノ完遂ハ東亞建設ノ前提ニシテ「大東亞建設」ナル文字ハ當然「大東亞戰爭ノ完遂」ヲモ意味シ居リ實質的修正ニハ非ズト云フニ在リ

右「フイリピン」側ノ意見ニ對シ我ガ現地軍ヨリモ之ヲ支持シ「フイリピン」ニ於ケル內政事情ニモ鑑ミ「ラウレル」ノ對內指導力ヲ强化スルノ見地ヨリ右修正意見ヲ受諾スルコト可然トノ意見具申アリタリ

然ルニ軍中央ニ於テハ「戰爭協力」ノ點ニ關シテハ東條總理ヨリノ示達ニモ明瞭ニ言及セラレ居リ「ラウレル」亦明カニ之ヲ了承シ在リトシ且「フイリピン」側ノ修正案ニ依レバ文理上「フイリピン」ハ單ニ戰爭中ノミナラズ戰後ニ於テモ軍事上ノ協力ヲ約束スルコトトナリ殊ニ附屬諒解事項ノ修正ハ戰後ト雖モ日本軍隊ノ駐屯ヲ認メ之ニ便宜ヲ供與スル

コトヲ約束スルコトトナルベク如斯ハ「フイリピン」國ノ爲ニ採ラザル所ナルノミナラズ「フイリピン」側ノ修正ハ條約ノ意味ヲ根本的ニ變更スルコトトナルヲ以テ到底同意シ難シトノ旨ヲ返電セリ依ツテ現地ニ於テハ極力「フイリピン」側ヲ說得シテ原案ニ由ルベク努力シタルモ「ラウレル」亦右修正ヲ加フルモ條約ノ精神ハ固ヨリ不動ニシテ而モ一般民衆ニ對スル反響ハ一層良好ナルヲ信ズル旨ヲ强調シテ讓ラズ且右修正ヲ「フイリピン」側ニ不利ナリトスルハ觀念論ニシテ當面ノ實際問題トシテハ修正案ヲ有利ト認ムト主張シテ我方ノ再考ヲ求メ更ニ附言シテ我方ガ飽迄原案ヲ固執スルニ於テハ「フイリピン」側トシテハ調印ヲ拒ムモノニ非ルコト勿論ナルモ斯クテハ戰爭ヲ嫌フ民衆ヲ指導シテ漸次參戰ニ迄導カントスル方策ニモ支障ヲ來シ新政府ノ立場ハ頗ル苦境ニ立到ルベク延イテハ國內分裂ノ懸念モ無シトセズトテ沈痛ナル面持ニテ述ブル所アリタリ玆ニ於テ現地軍ハ「フイリピン」側ノ意響ヲ詳細ニ傳ヘ中央ニ對シ更ニ再考ヲ求ムル趣旨ノ電報ヲ發セリ中央ニ於テハ關係各省間ニ更ニ研究ヲ重ネタル結果日比條約ヲ同盟條約トスルコト及總理示達ノ範圍ニ於ケル戰爭協力ヲ明示スルコトノ二點ハ帝國ノ一貫セル不動ノ方針ナルヲ以テ變更スルコトヲ得ザル旨竝ニ附屬諒解事項ノ修正ニハ異存ナキ旨ヲ回電シ「ラウレル」モ亦滿足スルニハ非ルモ事情止ムヲ得ズトシテ更ニ修正ヲ主張スルコトヲ止メ附屬諒解事項ノ修正個所ヲ『「フイリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衞スル爲』ト改メ玆ニ條約案文ノ妥結ヲ見タリ(附屬第八)尙「軍事上緊密ナル協力ノ主タル態樣」ナル字句ニ關シテハ之ヲ理論的ニ解釋スレバ多少ノ彈力性ナキニ非ルヲ以テ異論ヲ生ジ得ベキモ實際問題トシテハ本諒解事項ニ規定セラレタル以上ノコトヲ「フイリピン」側ニ强要スル意思ナキ旨特ニ先方ニ說明ヲ與ヘタリ

一〇、以上「フイリピン」獨立ニ關スル準備ハ著々進メラレ其ノ期日モ十月十四日ト決定セラレタリ

斯クテ一切ノ準備ハ整ヒ同日我方ハ先ヅ「フイリピン」ニ於ケル軍政ヲ撤廢スベキ旨ノ佈告ヲ發シ次イデ「フイリピン」側ハ其ノ獨立ヲ宣言シ玆ニ「フイリピン」ハ其ノ獨立ヲ實現スルコトトナレリ、續イテソレヨリ先特命全權大使トシテ派遣サレアリタル村田省藏ハ「フイリピン」國代表「レクト」外務大臣トノ間ニ日比同盟條約ノ調印ヲ行ヘリ、右同盟

條約ハ「フイリピン」ニ於テハ同月十八日批准ヲ了シ我國ニ於テハ同月二十日天皇陛下ノ御批准ヲ得十月二十八日「マニラ」ニ於テ村田大使及「レクト」外務大臣ノ間ニ批准書ノ交換ヲ行ヘリ

一一、斯クテ「フイリピン」國ノ獨立ハ完成セラレ東亞地域諸國家竝ニ獨逸ヲ始メ樞軸側諸國家ヨリ承認ヲ受ケ我方トノ協力ニ努力シツツ國內治安ノ確立、民心ノ把握指導ニ努メ來リタリ我方亦飽迄新「フイリピン」國ノ獨立ヲ尊重シ之ガ健全ナル發達ヲ希求シツツ之ガ援助ヲ吝マザル方針ナリシモ戰局ノ推移次第ニ不利ニ傾キ同國ニ對スル軍事上ノ要請益々多キヲ加フルニ伴ヒ我方ノ壓力ハ漸次增大スルノ止ムナキニ至リ食糧ノ缺乏ハ民心ノ動搖ヲ招來シ「ゲリラ」漸ク猖獗ヲ極メ遂ニ比島ノ內政ニ干涉セザルヲ得ザルニ至リタルハ遺憾ニ堪ヘザル所ト謂フベシ

附屬第一

二、比島獨立指導要綱

（昭和十八年六月二十六日大本營政府連絡會議決定）

一、方針

八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルノ大義ニ則リ帝國輔導ノ下努メテ比島ノ創意ト責任トヲ尊重シツツ大東亞共榮圈ノ一環タル新比島ヲ生成ス

而シテ比島ヲシテ速ニ帝國ト緊密一體大東亞戰爭完遂ニ協力シ得ル物心兩面ノ態勢ヲ整備セシム

二、指導要領

1　獨立準備ノ目標ト爲スベキ比島及日比關係ノ基本的形態別冊ノ如シ

2　現比島行政府ヲ刷新强化シ獨立後ノ政府ノ主體タリ得ル如ク指導ス

3　現地軍ニ對シ獨立指導ノ大綱ヲ示達シ其ノ指導下ニ比島側ヲシテ成ルベク速ニ獨立準備委員會ヲ編成セシメ獨立ニ

關スル諸般ノ施策ヲ立案審議セシム

4　獨立準備ノ進捗ニ伴ヒ比島ノ國家代表タルベキモノヲ選定セシム之ガ選定方法ハ比島側ノ創意ニ委ス

5　獨立準備概ネ完了セバ國家代表タルベキモノ其ノ他比島要人ヲ東京ニ招致シ獨立許容ニ關スル帝國ノ意圖ヲ正式ニ示達シ爾後現地軍指導下ニ更ニ獨立準備ヲ完成セシム

6　獨立ノ時期ハ概ネ昭和十八年十月ト豫定シ其ノ準備完了ノ時期ハ九月下旬ヲ目途トス

7　獨立ニ伴ヒ適時米英ニ對シ宣戰セシム

8　獨立ト共ニ締結スベキ日比間ノ條約ハ必要ノ最少限ニ止ム

別冊

新比島及日比間ノ基本形態

第一　建國ノ理念

一、大日本帝國ヲ盟主トスル大東亞共榮圏ノ一環トシテ道義ニ基ク新比島ヲ建設シ以テ世界新秩序ノ創造ニ寄與ス

第二　國家構成

二、比島ノ國體及政體ハ比島人自體ノ發意ニ俟チ之ヲ決定ス

三、領域ハ舊米領全比島トス

四、國民ハ比島民族ヲ主トシテ之ヲ構成ス

日本人ハ比島國民タルコトナシ

五、國名國旗首都ハ比島側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

第三　日比關係ノ大綱

六、帝國ノ對比施策ノ要ハ比島ヲシテ努メテ比島人ノ創意ト責任トニヨリ眞ニ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國トシテノ名實ヲ備ヘシムルニ在リ

七、帝國ハ比島ニ對シ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシム

當分ノ間現地帝國側官憲ノ業務實施ニ關シテハ特ニ軍事上ノ要請ヲ考慮シ實情ニ卽スル如ク措置スルモノトス

八、帝國ハ比島政府內ニ所要ノ期間必要ナル顧問ヲ配置シ之ガ指導ニ任ゼシム

九、「ミンダナオ」島ニ就テハ其ノ軍事的經濟的重要性ニ鑑ミ特別ノ措置ヲ採ルコトトセリ

第四　國政

一〇、政治機構及之ガ運用ハ努メテ强力簡素ナラシムルヲ方針トス

一一、國民參政ノ範圍及形態ハ比島側ノ意思ヲ尊重シテ之ヲ定ム但シ議會ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ性格ハ特ニ行政ノ敏活ナル運用ヲ阻害セザル如ク留意ス

一二、治外法權ハ之ヲ設ケズ

但シ日本人ニ對シテハ比島人ニ比シ不利ナラザル待遇ヲ附與ス

一三、外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

第五　軍事

一四、帝國トノ間ニ軍事上完全協力ヲ約シ帝國軍隊ノタメ一切ノ便宜ヲ供與ス所要ニ應ジ帝國軍隊ノ爲ノ施設等ヲ擔任ス

一五、比島防衞ニ必要ナル所要ノ陸海軍ヲ保有ス

但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質上帝國之ヲ指導シ少數ノ軍事顧問ヲ置ク比島軍ハ戰時ノ作戰用兵ニ關シ各々在比帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ヲ受ク

第六　財政、經濟及交通

一六、經濟ハ大東亞經濟建設ノ計畫ニ從ヒ其ノ一環トシテ比島ノ主權下ニ公正自由ナル活動ニヨリ之ガ振興ヲ期シ特ニ農業、鑛業及輕工業ニ重點ヲ置ク

但シ大東亞建設上特ニ必要ナルモノハ帝國ノ施策ニ順應セシムル如ク所要ノ措置ヲ講ズ

一七、金融ニ關シテハ資金ノ交流、決濟方法、換算率等ニ就キ帝國及爾他ノ地域トノ協力的體制ニ於テ之ヲ整備ス

發券機構ヲ整備シ新ナル通貨制度ヲ確立ス

一八、財政ハ速ニ自立セシムル如ク指導ス

一九、交通及通信ハ比島ノ主權下ニ置クモ主要ナルモノニ關シテハ帝國ノ要請ヲ認メシム

二〇、比島ト他地域トノ交通及物資ノ交流ハ大東亞ヲ通ズル計畫ニ從ヒ之ガ實施ノ圓滑ヲ期ス

而シテ物資交流ノ要領ハ差シ當リ概ネ現狀ヲ維持スルモ爲シ得ル限リ比島人ヲ之ニ參加均霑セシム

二一、敵產ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把握スルヲ必要トスル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ比島ニ移讓ス

比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ關スル申合セ

（昭和十八年六月二十六日）

內閣、陸軍省、海軍省、外務省、大東亞省

比島獨立指導要綱別冊第三ノ七ニ基ク現地ニ於ケル帝國側官憲ノ業務實施要領ハ左記ニ依ル

一、現ニ軍ニ於テ實施シアル事項ニシテ獨立後帝國ノ擔當スベキモノニ付テハ現地ノ實情ニ卽應シツツ逐次大使ノ擔當ニ移行スルモノトシ概ネ別紙ニ據ル

二、帝國側官憲ノ業務實施ニ方リテハ相互關聯事項ニ付密ニ協議スルモノトス

別　紙

一、獨立ト共ニ移行スベキモノ

純外交

政務ニ關スル交渉

帝國臣民ニ關スル事務

移植民、海外拓殖事業ニ關スル事務

文化事業ニ關スル事務

二、獨立後現地ノ實情ニ卽應シ成ルベク速ニ移行スベキモノ

直接軍ニ關係少キ政務事項

三、狀況之ヲ許スニ至ラバ移行スベキモノ

其ノ他ノ政務事項

附屬第二

三、獨立準備委員會ニ對スル現地軍示達經過

（昭和十八年七月二日）

昭和十八年七月二日午後四時半比島軍政監部宇都宮總務部長（小瀧司政官ヲ帶同）ハ綜合病院「ラウレル」病室ニテ比島獨立準備委員會ニ對シ別紙甲號ノ趣旨ヲ現地軍ノ名ニ於テ口頭示達シ次イデ右示達ノ說明トシテ別紙乙號ノ趣旨ヲ述ベタリ

（示達ハ覺書ノ形式ニテ委員會書記長ニ手交シ置ケリ）

準備委員會側出席者ハ委員長「ラウレル」副委員長「アバンセニヤ」及「アキノ」竝ニ書記長ノ四名ナリ

別紙甲號

比島獨立準備委員會ニ對スル口頭示達

比島軍政監部宇都宮總務部長ハ昭和十八年七月二日現地軍代表トシテ比島獨立準備委員會ニ對シ其ノ委員長第一、第二副委員長及書記長ヲ通ジ左ノ如キ口頭示達ヲ爲シタリ

一、準備委員會ハ先ヅ憲法起草ニ着手シ成ル可ク速カニ其ノ草案作成ヲ完了スベシ

二、新比島ハ大東亞共榮圏ノ一環トシテ道義ニ基キ世界新秩序ノ創造ニ寄與スベキモノナルコトヲ指導理念トシテ憲法ヲ起草スベシ

三、憲法ノ起草ニ當リテハ左ノ事項ニ特ニ留意スベシ

1　規定條項ハ國家ノ組織及運用ニ關スル基本的事項ニ限定スルコト

2　國家權力ノ行使ニ彈力性ヲ持タシメ延イテ強力簡素ナル國政運用ヲ期シ得ル如キ國家政治機構ヲ案出スルコト國民參政ノ範圍及形態ニ付テハ行政ノ敏活ナル運用ヲ阻害セザル如ク考慮ヲ拂フコト

3　殊ニ戰時中ハ行政權强化ニ付特別ノ考慮ヲ拂フコト

別紙乙號

獨立準備委員會ニ對スル口頭示達ニ伴フ說明

比島ニ獨立ヲ與ヘルト言フコトハ實ニ萬民ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムルト言フ我ガ八紘一宇ノ理想ニ出ルモノデアリマス從ツテ我々ハ此ノ國ヲ獨立國タラシムルニ付テ如何ナル方式ヲ採用スルカヲ我々ノ側ヨリ指圖ガマシイコトヲ言ツタリ干渉シタリスル意思ハ毛頭ナイノデアリマシテ坊間ニ行ハレテ居ル比島ニ獨立ヲ與フルニ付日本側ハ既ニ憲法草案ヲ用意シ

テ居ルンダト云フ樣ナトンデモナイ「デマ」モ特ニ之ヲ打消ス必要モ認メナイノデアリマス唯我々ハ戰前トハ全ク異ツタ新事態ニ應ジテ新比島政府ガ最モ巧ク運營セラルルコトヲ眞ニ希望スルガ故ニ前述數點ニ付テ特ニ諸君ノ注意ヲ喚起シタ次第デアリマス

我々ハ軍政實施以來度々繰リ返シテ我々ノ希望ハ「アジア」民族ヲ米英ノ桎梏カラ解放シテ我々ノ協力共助ニ依ツテ「アジア」人ノ「アジア」ヲ建設スルニアル由ヲ申シテ參リマシタガ此ノ點カラ見テ我々ハ新比島ガ物心兩面ニ於テ米國依存ヲ脫却シテ東亞共榮圈ノ一環トシテ完全ナル獨立國トシテ成長スルコトヲ希望スルモノデアリマス

此ノコトヲ胸ニ置イテ諸君ハ比島民ノ理想ヲ包含スルト同時ニ新シイ事態ニ適合スル樣ナ新憲法ヲ作成セラレタイノデアリマス

斯ク言ヘバトテ私ハ米國ノ影響下ニ採擇セラレタ舊憲法ノ條章ハ凡テ一律ニ不可デアルト言フモノデハアリマセン舊憲法ハ新憲法研究上ノ重要ナル材料デアリマセウシ又其ノ幾部ハ新憲法ニ包攝セラルルコトモアロウト思ヒマス

併シ乍ラ私ハ新事態ハ新憲法ヲ要求スルト言フコトヲ申上ゲ又私ノオ示シシタ指導方針ヲ良ク頭ニ置イテ最善ノ憲法ヲ作ラルル樣折角努力セラレンコトヲ切望シテ熄ミマセン

附屬第三

四、「フイリピン」共和國憲法草案(假譯)

(昭和十八年八月十七日「フイリピン」獨立準備委員會起草分科委員會ニ於テ決定)

前文

「フイリピン」人民ハ神助ヲ懇願シツツ且自由ナル國家ノ存續ヲ維持センコトヲ欲シツツ茲ニ其ノ獨立ヲ布告シ又其ノ保全福祉ヲ增進シ國民世襲財產ヲ保存開發シ且平和、自由及道義ニ基ク世界秩序ノ創造ニ寄與スベキ政府ヲ樹立センガ爲茲

ニ本憲法ヲ制定ス

第一條　「フイリピン」共和國

第一項　比島國ハ共和政體ニシテ本憲法ニ依リ創設セラルル國家ハ之ヲ「フイリピン」共和國ト稱ス

第二項　「フイリピン」共和國ハ現在法律ニ依リ定メラレ且條約ニ依リ認メラレタル一切ノ國家領域ノ上ニ主權ヲ行使ス

第二條　行政

第一項　行政權ハ「フイリピン」共和國大統領ニ屬ス

第二項　大統領ハ法律ノ定ムル期日及場所ニ於テ其ノ目的ノ爲正式ニ召集セラレ且會合セル國民議會議員總數ノ過半數ニ依リ之ヲ選擧ス

第三項　大統領ハ年齡四十歲以上ノ出生ニ依ル「フイリピン」國市民ニシテ選擧直前「フイリピン」國ニ十年以上居住シタルモノニ非ザレバ之ニ選擧スルコトヲ得ズ

第四項　大統領ハ六年間其ノ地位ヲ保持シ次期ノ再選ハ之ヲ許サズ

第五項　大統領ノ任期ハ其ノ選擧後六年ヲ經過セル後ノ十二月三十日ノ正午ヲ以テ終了シ後任者ノ任期ハ同時ニ開始ス其ノ時迄ニ後任者ガ確立シ居ラザルカ又ハ大統領當選者ガ資格ヲ備フルニ至ラザル場合ニ於テハ前任者ハ後任者ガ選擧セラレ且資格ヲ有スルニ至ル迄地位ヲ存續ス大統領ガ解任セラルルカ又ハ死去、辭職若ハ其ノ權能及職務ヲ遂行スルコト不可能トナリタル場合ニ於テハ右大統領ノ地位ハ殘存任期ニ對シ新大統領ノ選擧セラルルニ至ル迄法律ノ定ムル席次ニ依ル上席大臣ニ移讓セラル後ノ場合ニ於テハ選擧ハ右辭任、死去、辭職又ハ權能及職務遂行不可能トナリタルトキヨリ六十日以內ニ之ヲ行フ

第六項　大統領ハ就任ニ先チ左ノ宣誓又ハ確言ヲ爲スベシ

「余ハ忠實ニ且良心ニ從ヒ「フイリピン」共和國大統領トシテノ職責ヲ果シ其ノ憲法ヲ保全且擁護シ法令ヲ執行シ各人

ニ對シ正義ヲ行ヒ國家ヘノ奉公ニ盡瘁スベキコトヲ茲ニ嚴肅ニ宣誓(又ハ確言)スルモノナリ、神ヨ願ハクバ加護ヲ垂レ給ヘ」(確言ノ場合ハ最後ノ句ヲ略スベシ)

第七項　大統領ハ官邸ヲ有シ法律ニ依リ定メラレタル俸給ヲ受ク但シ右俸給ハ大統領トシテ其ノ任期中增加又ハ減少セラルルコトナシ大統領ハ在任中政府若ハ其ノ部局又ハ其ノ施策機關ヨリ他ノ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ

第八項　大統領ハ一切ノ行政各省部局又ハ他ノ官廳地方政府組織及行政部其ノ他ノ部門又ハ施策機關ヲ統轄監督シ且法令ガ忠實ニ施行セラルル樣査察スベシ

第九項　大統領ハ「フイリピン」共和國ニ於ケル一切ノ軍隊ノ總指揮官ニシテ必要アル場合ハ不法ナル行爲、侵略、擾亂又ハ叛亂ヲ防止又ハ鎭壓スル爲右軍隊ニ出動ヲ命ズルコトヲ得侵略、擾亂、叛亂若ハ斯カル危險ノ急迫セル場合又ハ公共ノ安全ヲ保持スル爲必要アルトキハ大統領ハ「フイリピン」國又ハ其ノ何レノ地方ニモ戒嚴令ヲ布クコトヲ得

第十項　大統領ハ各省大臣及次官ヲ任命シ且內閣ノ諮問ヲ經テ大使、公使、領事、部局ノ長官、大佐以上ノ陸軍將校、大佐又ハ中佐以上ノ海軍及空軍將校、州知事、市町村長及其ノ任命ニ關シ法律ニ別段ノ規定ナキ他一切ノ官吏ヲ任命ス

第十一項　國策ニ關シ大統領ノ諮問ニ應ズル爲參議會ヲ設ク參議會ハ國家ニ對シ顯著ナル功績アリタル市民中ヨリ大統領ガ任命スル二十名ヲ超エザル參議ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二項　大統領ハ國民議會議員總數ノ三分ノ二ノ同意ヲ得テ宣戰及媾和ヲナシ竝ニ條約ヲ締結スル權能ヲ有ス大統領ハ適法ナル信任狀ヲ以テ「フイリピン」共和國ニ派遣セラレタル大使及公使ヲ接受スベシ

第十三項　大統領ハ其ノ適當ト認ムル條件竝ニ一定ノ限界及制限ノ下ニ一切ノ犯罪ニ對シ有罪判決ノ後執行猶豫、減刑及特赦ヲ許可シ罰金及沒收ノ返付ヲ爲ス權能ヲ有ス大統領ハ國民議會ノ同意ヲ得テ大赦ヲ行フ權能ヲ有ス

第十四項　大統領ハ隨時國民議會ニ對シ國家ノ狀況ニ關スル報告ヲ爲シ其ノ必要且便宜ナリト認ムル方策ヲ提示シ之ガ考慮ヲ勸告スベシ

第三條　立法

第一項　立法權ハ國民議會ニ屬ス

第二項　國民議會ハ地位上當然ノ議員トシテノ州知事及市長竝ニ新「フイリピン」奉仕團ノ各州及市ニ於ケル支部ノ委員ニ依リ各州及特別市ヨリ三年毎ニ一名宛選擧セラルベキ代表者ヲ以テ組織ス選擧ノ期日、方法、缺員補充ノ方法及選擧人ノ資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三項　選擧直前迄五年間以上「フイリピン」國市民ニシテ年齡三十歲以上ノモノニ非ザレバ之ヲ國民議會議員ニ選擧スルコトヲ得ズ

第四項　㈠國民議會ハ法律ノ定ムル期日ニ於テ毎年一回通常會期ヲ召集スベシ但シ日曜日ヲ除キ六十日以上繼續スルコトヲ得ズ大統領ハ何時タリトモ一般法案又ハ大統領ノ指定スル特殊議案ノミヲ審議スル爲大統領ノ決定スベキ期間特別會期ヲ召集スルコトヲ得

㈡國民議會ハ其ノ議長一名、書記官一名、守衛其ノ他必要ナル職員ヲ選任スベシ議員總數ノ過半數ヲ以テ議事定足數トス但シ議員數ガ右定足數ニ滿タザル場合ハ日程ヲ順延スルコトヲ得又議會ノ定ムル方法及罰則ニ依リ缺席議員ノ出席ヲ强要スルコトヲ得

㈢國民議會ハ選擧投票報告及選擧ニ依ル議員ノ資格ヲ判定スル唯一ノ機關タルベシ又議會ハ議事規則ヲ定メ秩序紊亂ノ所爲アリタル議員ヲ罰シ且議員數ノ三分ノ二ノ同意ヲ得テ議員ヲ除名スルコトヲ得議會ハ議事錄ヲ保存シ且祕密ヲ要スト認メラルル部分ヲ除キ隨事之ヲ公表スベシ議題ノ如何ヲ問ハズ其ノ贊否ノ氏名出席議員ノ五分ノ一ノ要求アリタル場合之ヲ議事錄ニ記載スベシ

第五項　國民議會ノ議長及ビ議員ハ議會出席ノ爲各々其ノ選出セラレタル州又ハ市ヨリ往復スル旅費ヲ除キ法律ノ定ムル俸給ヲ受ク國民議會ハ其ノ議長及ビ議員ノ任期中之ガ俸給ヲ增額スル權能ヲ有セズ

第六項　國民議會議員ハ法定刑ガ死刑又ハ十二年以上ノ禁錮ニ該當スル犯罪ノ場合ヲ除キ議會出席中及ビ議會ヘノ往復ノ途次ニ於テ逮捕セラレザルノ特權ヲ有ス又議員ノ議會ニ於ケル演說又ハ討議ニ對シテ議會外ニ於テ問責セラルルコトナシ

第七項　㈠大統領ハ國民議會ノ通常會期開會ノ日ヨリ十日以內ニ一般歲出豫算案ノ基礎トナルベキ收支豫算書ヲ提出スベシ

㈡會計年度末ニ際シ次年度ニ於ケル政府維持ニ必要ナル歲出豫算成立シヲラザルトキハ當該年度歲出豫算案中ノ若干ノ金額ハ大統領ガ可能ナリト判斷スル限リニ於テ一般歲出豫算案ノ可決ニ至ル迄其ノ特定セラレタル目的及使途ニ對シ更ニ振當テラレタルモノト看做ス

㈢一般歲出豫算中ニハ特定ノ歲出豫算ニ具體的ニ關係ナキ條項又ハ立法的規定ヲ包含セシムルコトヲ得ズ且右ノ條項又ハ立法的規定ノ適用ハ當該關係歲出豫算ノミニ限ルモノトス

第八項　各省大臣ハ其ノ發意又ハ國民議會ノ要求ニ基キ所管事項ニ關シ議會ニ出席シ意見ヲ開陳スルコトヲ得但シ公益上意見ヲ開陳セザルコトヲ必要トシ且大統領ニ於テ其ノ旨書面ヲ以テ通告シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九項　㈠國民議會ヲ通過セル法案ハ大統領ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ法律タルコトナシ大統領ニ於テ其ノ法案ニ同意スル場合ハ之ニ署名シ然ラザル場合ハ其ノ反對理由ヲ附シテ國民議會ニ返付スベシ議會ハ其ノ議事錄中ニ反對理由ヲ逐一記載スベク又議員總數ノ三分ノ二ノ票決ニ依リ更ニ之ヲ再審議シ再可決スルコトヲ得右ノ如キ一切ノ場合國民議會ノ票決ハ贊否ノ投票ニ依リテ之ヲ決シ贊成又ハ反對ノ議員ノ氏名ハ議事錄ニ之ヲ記載スベシ大統領ガ法案ヲ再度否認シタル場合ニ於テハ國民議會ハ同一會期中ニ於テ之ヲ再審議及再可決スルコトヲ得ズ

法案ガ大統領ニ提出セラレタル後二十日以內(日曜ヲ除ク)ニ本項ノ規定ニ從ヒ大統領ヨリ返付セラレザル場合ニ於テハ右法案ハ大統領ノ署名シタルト同樣ニ法律トシテ成立ス但シ議會ガ閉會セラレタル爲法案ノ返付ガ妨ゲラレタル場

合ニ於テハ右法案ハ議會ノ閉會後四十日以内ニ大統領ニ拒否セラレザル限リ法律トシテ成立ス

㈡大統領ハ歳出歳入又ハ關税法案中特定ノ一項目又ハ二以上ノ項目ヲ拒否スル權能ヲ有ス但シ其ノ拒否ハ大統領ノ反對セザル他ノ一項目又ハ二以上ノ項目ニ影響セザルモノトス歳出豫算案中ノ一條項ガ同案中ノ一項目又ハ二以上ノ項目ニ影響スル場合ハ右ノ條項ニ關係アル特定ノ一項目又ハ二以上ノ項目ヲ同時ニ拒否スルコトヨリシテ右ノ條項ヲ拒否スルコトヲ得ズ

第十項　㈠法律トシテ制定セラルベキ法案ハ其ノ名稱ニ表示セラルベキ一個ノ主題以外ノ主題ヲ包含スルコトヲ得ズ

㈡法案ハ其ノ最終ノ形式ニ於ケル寫ガ國民議會ヲ通過スル少クトモ三日以前ニ議員ニ提供セラルルニ非ザレバ國民議會ヲ通過シ又ハ法律トナルコトナシ但シ大統領ニ於テ緊急制定ノ必要ヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ法案ノ最終議會ノ際ハ修正ヲ許サズ

且法案ヲ最終的ニ通過スベキヤ否ヤノ議題ハ最終議會後直ニ附議セラレ其ノ贊否ノ投票ハ之ヲ議事錄ニ記載スベシ

第十一項　㈠特別ノ目的ノ爲賦課シタル租税ニ依ル徵收金ハ特別基金トシテ之ヲ取扱ヒ其ノ目的ニ對シテノミ之ヲ支出スルヲ要ス、特別基金ヲ設定シタル目的ガ達成又ハ廢棄セラレタル場合ニ於テ剩餘金ノ存スルトキハ之ヲ政府ノ一般基金ニ繰入ルベシ

㈡如何ナル金額ト雖モ法律ニ依リ規定セラレタル歳出豫算ニ準據スルニ非レバ國庫ヨリ支拂ヲナスコトヲ得ズ

㈢公金又ハ公ノ財産ハ宗派、教會、教派、宗派的造營物若ハ宗教的組織又ハ僧侶、教悔師、牧師其ノ他ノ宗教的教師若ハ高位僧職ノ使用、利益又ハ支持ノ爲直接又ハ間接ニ支出、充當又ハ使用スルコトヲ得ズ但シ右僧侶、教悔師、牧師又ハ高位僧職ガ軍隊又ハ刑罰機關、孤兒院若ハ癩病保養所ニ配屬セラレ居ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二項　㈠租税規則ハ劃一ナルヲ要ス

㈡國民議會ハ其ノ定ムル制限ト限界ノ下ニ法律ヲ以テ大統領ニ對シ明記セラレタル範圍内ニ於テ關税率、輸出入割當、

噸税及ビ埠頭使用料ヲ定ムル權限ヲ賦與スルコトヲ得

㈢墓地、教會又ハ教會附屬ノ牧師住宅及ビ修道院竝ニ宗教的、慈善的又ハ教育目的ノ爲ニ專ラ使用セラルル一切ノ土地、建築物及ビ其ノ施設ニ對シテハ租税ヲ免除ス

第十三項　國民議會ハ戰時又ハ他ノ國家的緊急時ニ於テ法律ヲ以テ大統領ニ對シ一定ノ期間及ビ議會ノ定ムル限界ノ下ニ既定ノ國策遂行ノ爲命令及ビ規則ヲ公布スル權限ヲ賦與スルコトヲ得

第十四項　國民議會閉會中緊急ノ必要アル場合大統領ハ命令及ビ規則ヲ公布スルコトヲ得右命令及ビ規則ハ國民議會ノ通常會期終了前決議ニ依リ否認セラルル迄法律トシテノ效力ヲ有ス

第四條　司法

第一項　司法權ハ大審院及ビ法律ニ依リ設置セラルベキ下級裁判所ニ屬ス

第二項　國民議會ハ各種裁判所ノ管轄權ヲ限定、規定及ビ配分スル權能ヲ有ス但シ大使、公使及ビ領事ニ關聯セル事件ニ對スル大審院固有ノ管轄權ヲ奪フコトヲ得ズ又法律又ハ裁判所規則ノ定ムル所ニ依ル控訴、訴訟書類移送命令又ハ再審ヲ求ムル令狀ニ基キ法律、命令、行政命令若ハ規則ノ合憲性、裁判所ノ管轄權又ハ單ニ法律ノ誤謬若ハ解釋ガ問題トナレル一切ノ事件ニ關スル下級裁判所ノ最終判決文又ハ命令ヲ再審議シ修正シ取消シ變更シ又ハ確認スル大審院ノ管轄權ヲ奪フコトヲ得ズ

第三項　法律ニ別段ノ規定ナキ限リ大審院ハ院長タル主席判事及ビ六名ノ陪席判事ヲ以テ組織ス

第四項　大審院判事ハ內閣ノ諮問ヲ經テ大統領之ヲ任命ス一切ノ下級裁判所判事ハ大審院ノ諮問ヲ經テ大統領之ヲ任命ス

第五項　大審院判事ハ年齡四十歲以上ノ「フイリピン」國市民ニシテ「フイリピン」國ニ於テ十年以上記錄裁判所ノ判事タルカ又ハ法律事務ニ從事シタル者ナルコトヲ要ス

第六項　國民議會ハ下級裁判所判事ノ資格ヲ定ム但シ右判事ハ「フイリピン」國市民ニシテ「フイリピン」國ニ於テ法律

事務ニ從事スルコトヲ許サレタル者ナルコトヲ要ス

第七項　大審院判事及ビ下級裁判所判事ハ年齡七十歲ニ達スルカ又ハ職務執行不可能トナル迄ハ其ノ行狀善良ナル限リ其ノ地位ヲ保持ス右判事ハ法律ニ依リ定メラレタル俸給ヲ受ケ政府ノ一切ノ官吏及ビ雇傭人ノ俸給ノ一般的改正ノ場合ノ外其ノ在任中減俸セラルルコトナシ

第八項　大審院ニ對シ其ノ判決ヲ受クル爲提出セラレタル事件ニ關スル其ノ結論ハ大審院ノ意見ヲ記述スル爲右事件ガ一名ノ判事ニ付託セラルルニ先チ合議ノ上到達セラルベキモノトス判決ニ反對意見ヲ有スル判事ハ其ノ反對ノ理由ヲ明記スルヲ要ス

第九項　法律若ハ行政命令又ハ命令若ハ規則ハ大審院判事全員一致ノ票決アルニ非レバ之ヲ憲法違反ト宣告スルコトヲ得ズ

第十項　記錄裁判所ハ判決中ニ其ノ準據セル事實及ビ法律ヲ明示スルニ非レバ如何ナル判決ヲモ下スコトヲ得ズ

第十一項　大審院ハ一切ノ裁判所ニ於ケル陳辯、慣行及ビ訴訟手續竝ニ法律事務ニ從事スルコトノ許可ニ關スル規則ヲ公布スル權能ヲ有ス右規則ハ同一階級ノ一切ノ裁判所ニ對シ劃一タルベク又實體法上ノ權利ヲ縮減シ增加シ又ハ修正スルコトヲ得ズ陳辯、慣行及ビ訴訟手續ニ關スル一切ノ現行法令ハ大審院ニ依リ變更及ビ修正セラルルコトアルベシ

第五條　彈劾

第一項　大統領及ビ大審院判事ハ問責ニ値スル憲法違反、反逆罪、贈收賄又ハ他ノ重大犯罪ニ關シ彈劾ヲ受ケ且有罪ト判決セラレタル場合ニハ其ノ職ヲ解カルベシ

第二項　國民議會ハ議員總數ノ三分ノ二ノ票決ニ依リ專ラ彈劾ヲ行フ權能ヲ有ス

第三項　大審院ハ專ラ一切ノ彈劾ヲ審理スル權能ヲ有ス大審院判事全員ノ四分ノ三ノ同意アルニ非ザレバ有罪ノ判決ヲ下スコトヲ得ズ

第四項　彈劾事件ノ判決ハ解職竝ニ「フイリピン」共和國政府ノ下ニ於ケル名譽、無給又ハ有給ノ何レノ地位タルトヲ問ハズ如何ナル公職ニモ就任シ且之ヲ享有スル資格ノ剝奪以上ニ及ブコトヲ得ズ但シ有罪ト決定セラレタル當事者ト雖モ法律ニ從ヒ之ヲ起訴、裁判及ビ處罰スルコトヲ得

第六條　市民權

第一項　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ「フイリピン」國市民トス

㈠本憲法採擇ノ時ニ於テ「フイリピン」國市民タル者及ビ其ノ子孫

㈡法律ニ基キ歸化スル者

第二項　「フイリピン」國市民權ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ喪失又ハ回復スルコトヲ得

第七條　市民ノ義務及ビ權利

第一項　法律ノ要求スルトコロニ從ヒ文武ノ公役ニ服シ租稅及ビ手數料ヲ納付シ竝ニ有用ナル職業及ビ業務ニ從事スルハ市民ノ義務タルモノトス

第二項　正當ナル法律上ノ手續ヲ經ズシテ生命、自由若ハ財產ヲ剝奪シ又ハ法令ノ平等ナル保護ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三項　國教ノ創始ニ關スル法律又ハ信教ノ自由ヲ禁止スル法律ハ之ヲ制定スルコトヲ得ズ市民權又ハ政治的權利ノ行使ニ關シテハ何等宗教上ノ宣誓ヲ要セズ

第四項　契約ノ義務ヲ毀損スル法律ハ之ヲ制定スルコトヲ得ズ

第五項　刑事ニ關スル遡及法ハ之ヲ制定スルコトヲ得ズ

第六項　債務ヲ事由トシテ人ヲ監禁スルコトヲ得ズ

第七項　本人ノ意思ニ依ラザル服役ハ如何ナル形式ノモノタルヲ問ハズ存在スルコトナシ但シ當事者ガ正當ノ手續ニ依リテ有罪ト判決セラレタル犯罪ニ對スル刑罰トシテノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八項　人身保護令ノ特權ハ之ヲ停止スルコトヲ得ズ但シ侵略、擾亂若ハ叛亂又ハ公共ノ安全ヲ保持スル爲必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九項　私有財産ハ正當ノ補償ナクシテ公共ノ用ニ供セラルルコトナシ

第十項　貧窮ノ故ヲ以テ裁判所又ハ行政裁判所ニ對スル訴訟ノ自由ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十一項　平和、道德、衞生、安全又ハ公安ノ爲法律ノ定メタル制限ノ範圍內ニ於テ左ノ各號ノ權利又ハ自由ハ之ヲ侵スコトヲ得ズ

㈠不當ノ搜索及ビ差押ニ對シテ安全ヲ保障セラルル權利

㈡通信及ビ信書ノ祕密

㈢法律ニ違反セザル目的ノ爲ニスル結社又ハ團結ノ權利

㈣無差別且同等ニ認メラレタル信仰表白ト禮拜ノ享有及ビ實行ノ自由

㈤法律ノ定ムル範圍內ニ於ケル居住及ビ移轉ノ自由

㈥言論若ハ出版ノ自由又ハ平穩ニ集會シテ不平ニ對スル匡救ニ關シ政府ニ請願スル人民ノ權利

第八條　天然資源ノ保存及ビ利用

第一項　公有地ニ屬スル一切ノ農林鑛業用地、水、鑛物、石炭、石油及ビ其ノ他ノ鑛油、潛在「エネルギー」資源竝ニ其ノ他ノ「フイリピン」國ノ天然資源ハ國有トシ其ノ處分、採掘、開發又ハ利用ハ「フイリピン」國市民又ハ資本ノ六十「パーセント」以上ヲ「フイリピン」國市民ガ所有スル會社若ハ組合ニ之ヲ制限ス但シ本憲法ニ基ク政府ノ創設セラルル時ニ現存スル一切ノ權利、讓渡、租借又ハ利權ハ此ノ限ニ在ラズ天然資源ハ公有農業地ヲ除キ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ又何レノ天然資源ノ採掘、開發又ハ利用ニ關スル許可、特許又ハ租借ハ二十五年ヲ超ユル期間ニ亙リ之ヲ許可スルコトヲ得ザルモ更ニ二十五年間更新スルコトヲ妨ゲズ、但シ灌漑、給水、漁業又ハ水力開發以外ノ工業的用途ニ對スル水

利權ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ之ガ有益ナル使用ヲ許可ノ基準及ビ限度トス

第二項　私的會社又ハ組合ハ一千二十四「ヘクター」ヲ超ユル公有農業用地ヲ取得、租借又ハ保有スルコトヲ得ズ又個人ハ公有農業用地ヲ一百四十四「ヘクター」ヲ超エ買入レ一千二十四「ヘクター」ヲ超エ租借シ又ハ二十四「ヘクター」ヲ超エ「ホームステツド」トシテ取得スルコトヲ得ズ二千「ヘクター」ヲ超エザル牧畜ニ適スル土地ハ之ヲ個人、私的會社又ハ組合ニ租借セシムルコトヲ得

第三項　國民議會ハ個人、會社又ハ組合ガ取得及ビ保有シ得ベキ私有農業用面積ヲ法律ヲ以テ決定スルコトヲ得但シ右法律制定以前ニ存在スル權利ノ行使ヲ妨ゲズ

第四項　國民議會ハ土地ヲ小區劃ニ分割シ實費ヲ以テ個人ニ分讓スル爲正當ナル補償ヲ支拂ヒテ收用スルノ權限ヲ賦與スルコトヲ得

第五項　私用農業用地ハ「フイリピン」國ニ於テ公有地ニ屬スル土地ヲ取得又ハ保有スル資格ヲ有スル個人、會社若ハ組合又ハ無遺言相續ノ場合法律ニ依リ相續ノ權利ヲ有スル者ニ對スルノ外之ヲ移轉又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第九條　一般的規定

第一項　「フイリピン」共和國ノ國旗ハ比島人民ニ依リ神聖視セラレ尊敬セラレ居ル如ク一箇ノ太陽及ビ三箇ノ星ヲ配セル赤色、白色及ビ青色ノ組合セトス

第二項　政府ハ國語トシテノ「タガログ」語ノ發達及ビ普及ニ關シ手段ヲ講ズベシ

第三項　會計檢査院ヲ設置シ政府、其ノ部局及ビ施策機關竝ニ法律ノ定ムベキ人及ビ營造物ノ歳入、受入金竝ニ政府ノ基金及ビ財産ニ關スル一切ノ勘定ヲ審査、檢査及ビ決算セシム

第四項　政府ノ一切ノ部門及ビ部局ヲ含ム文官制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム文官制度ニ於ケル任命ハ政策決定ニ關スルモノ本來祕密ヲ要スルモノ又ハ性質上高度ニ專門的ナルモノヲ除キ可成ク競爭試驗ニ依リ決定セラルベキ成績及ビ適應性ニ

從ヒ之ヲ行フモノトス

第五項　一切ノ官吏及ビ軍人ハ憲法ヲ支持シ擁護スベキ旨ノ宣誓ヲ爲スベシ

第六項　官吏又ハ雇傭人ハ法律ニ依リ特ニ許可セラルルニ非ザレバ追加又ハ二重ノ俸給ヲ受クルコトヲ得ズ

第七項　官吏及雇傭人ハ在職中如何ナル職業ニモ從事スルコトヲ得ズ又其ノ職務執行ニ依リ何等カノ影響ヲ受クルコトアルベキ私的企業ノ經營又ハ管理ニ直接又ハ間接ニ關與シ或ハ政府又ハ其ノ部局若ハ施策機關トシテ契約ニ付キ直接又ハ間接ニ財產利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ

第八項　一切ノ人民ノ福祉及ビ經濟的安定ヲ確保スル爲ノ社會正義ノ助長ハ國家ノ關心事タルモノトス

第九項　國家ハ科學上ノ研究及ビ發明ヲ奬勵ス美術及ビ文藝ハ國家ノ保護ヲ受ク著作及ビ發明ニ對スル獨占權ハ一定期間著作者及ビ發明者ニ對シ保障セラルベシ

第十項　一切ノ教育機關ハ之ヲ政府ノ統轄統制ノ下ニ置ク政府ハ完全且適當ナル國家的教育制度ヲ創設維持シ少クトモ無料ノ初等學校教育及ビ成年市民ニ對スル市民訓練ヲ施スベシ一切ノ學校、專門學校及ビ大學ハ人格、個人的團體的紀律、市民的良心及ビ職業的熟練ヲ啓發シ社會的能率ヲ確保スルコト竝ニ市民ノ義務ヲ教育スルコトヲ目的トスベシ法律ニ依リ現在認メラルルガ如ク公立學校ニ於テハ隨意課目トシテ宗教教育ヲ維持スベシ國家ハ特ニ才能アル市民ノ爲美術、科學及ビ文藝ニ關スル奬學金制度ヲ設ク

第十一項　國家ハ勞働者特ニ女子及ビ未成年勞働者ニ對シ保護ヲ與ヘ地主ト小作人間竝ニ工業及ビ農業ニ於ケル勞資間ノ關係ヲ規制ス國家ハ强制調停ノ制度ヲ設クルコトヲ得

第十二項　國家ハ國民ノ福祉及ビ國防ノ爲產業及ビ運輸通信機關ヲ設立經營シ又公益事業及ビ其ノ他ノ私企業ヲ政府ニテ經營スル爲正當ナル補償ヲ支拂ヒタル上之ヲ公有ニ移スコトヲ得

第十三項　公益事業ノ經營ニ關スル特許、免許又ハ其ノ他如何ナル形式ノ許可モ「フイリピン」國市民又ハ「フイリピン」

國ノ法律ニ基キ組織セラレタル會社若ハ其ノ他ノ團體ニシテ其ノ資本ノ六十「パーセント」ガ「フイリピン」國市民ニ依リ保有セラルルモノニ對スルニ非ザレバ之ヲ賦與スルコトヲ得ズ又右特許、免許又ハ許可ハ獨占的性質ヲ有シ又ハ五十年以上ノ期間ニ及ブコトヲ得ズ特許又ハ權利ハ公益上必要アル場合ニ於テハ國民議會ニ依リ改正、變更又ハ取消サルベシトノ條件ノ下ニ於テノミ之ヲ個人、商社又ハ會社ニ對シテ賦與ス

第十四項　國民議會ハ一般法ニ依ルニ非ザレバ私的會社ノ設立、組織又ハ規制ニ關シ規定スルコトヲ得ズ但シ右會社ガ政府又ハ其ノ部局若ハ施策機關ニ依リ所有又ハ管理セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　憲法ノ改正

第一項　國民議會ハ議員總數ノ三分ノ二ノ票決ヲ以テ本憲法ニ對スル改正ヲ提議スルコトヲ得但シ右改正ハ其ノ目的ノ爲法律ノ定ムル期日及ビ條件ノ下ニ特別ニ召集セラレタル人民投票又ハ會議ニ於テ人民ニ依リ承認セラルルニ非ザレバ本憲法ノ一部トシテ效力ヲ有スルコトナキモノトス

第十一條　過渡的規定

第一項　本憲法ハ其ノ目的ノ爲特別ニ選擧セラレ召集セラレタル新「フイリピン」再建奉仕團總會ノ議員總數ノ三分ノ二ノ票決ヲ以テ之ヲ承認ス

第二項　第一回國民議會ハ法律ノ定ムル場所及ビ期日ニ於テ召集セラレ其ノ成立直後「フイリピン」共和國大統領ヲ選擧ス

第三項　「フイリピン」行政府ノ現在ノ行政各部ハ國民議會ガ法律ニ依リ別段ノ規定ヲ爲ス迄共和國各省トシテ存續ス

第四項　「フイリピン」ノ一切ノ法令ハ共和國ノ創始セラルル迄有效ニ存續ス其ノ後ニ於テハ本憲法ニ牴觸セザル限リ國民議會ニ依リ改正、變更、修正又ハ廢止セラルル迄引續キ有效トス又右法令中ニ於テ「フイリピン」又ハ「フイリピン」行政府ノ政府又ハ官吏ト稱スルハ適用シ得ル限リ共和國ノ下ニ於ケル政府又ハ當該官吏ヲ指稱スルモノトス

第五項　本憲法採擇ノ際現存スル一切ノ裁判所ハ本憲法ノ規定ニ牴觸セザル限リ法律ニ依リ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄存續シ其ノ管轄權ヲ行使ス但シ右裁判所ニ繫屬スル一切ノ民事及ビ刑事事件ハ其ノ當時實施中ノ法令ニ基キ審理、裁判及ビ判決セラルルモノトス

第六項　「フイリピン」行政府ノ下ニ於ケル一切ノ官吏及ビ雇傭人ハ國民議會ガ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄引續キ其ノ職ニ從事スベシ但シ本憲法ニ依リ大統領ガ任命權ヲ有スル一切ノ官吏ハ其ノ後任者ガ任命セラレ且資格ヲ有スルニ至ルト共ニ其ノ職ヲ退クベシ

第七項　共和國ハ其ノ創始ノ時ニ於テ有效ニシテ且存續スル「フイリピン」竝ニ其ノ州、市町村及ビ施策機關ノ公債及ビ債務ヲ繼承シ其ノ支拂ニ關シ適當ナル規定ヲ設クベシ

第八項　本憲法第八條第一項、第二項、第五項及ビ第九條第十三項、第十四項ニ規定スル禁止及ビ制限ニ拘ラズ「フイリピン」共和國大統領ハ天然資源ノ利用及ビ公益事業ノ經營ニ關シ條約ニ依リ外國ト協定ヲナスコトヲ得右協定ハ大東亞戰爭繼續中ノミ存續スルモノトス

第九項　本憲法ノ規定ハ本條及ビ本憲法ニ基キ選擧セラルベキ官吏ノ選擧及ビ資格ニ關スルモノヲ除キ「フイリピン」共和國創始ノ時迄其ノ效力ヲ發生セズ

第十二條　特別規定

第一項　國民議會ハ大東亞戰爭終了後一年以內ニ法律ヲ以テ普通選擧ニ依ル憲法會議ヘノ代表者選擧ノ準備ヲ爲スベシ選擧後六十日以內ニ右代表者ハ新憲法ノ起草及ビ採擇ノ爲會議ヲ開催スベシ新憲法ハ其ノ目的ノ爲實施セラルベキ人民投票ニ於テ承認セラルルコトニ依リ其ノ效力ヲ發生ス右承認アリタル後國民議會ハ直ニ新憲法ニ基ク官吏ノ選擧及ビ政府ノ創始ノ準備ヲ爲スベシ

附屬第四

五、「フイリピン」新憲法（一九四三年）

前文

「フイリピン」國民ハ神助ヲ祈願シツツ且自由ナル國ノ存立ヲ維持センコトヲ欲シツツ茲ニ其ノ獨立ヲ布告シ且一般ノ福祉ヲ增進シ國民ノ世襲財產ヲ保存開發シ竝ニ平和、自由及道義ニ基ク世界秩序ノ創造ニ寄與スベキ政府ヲ創立センガ爲本憲法ヲ制定ス

第一條　「フイリピン」共和國

第一節　「フイリピン」國ハ共和國ナリ本憲法ニ依リ創立セラルル政府ハ「フイリピン」共和國ト稱セラルベシ

第二節　「フイリピン」共和國ハ現在法律ニ依リ定メラレタル一切ノ國家領域ニ對シ主權ヲ行使スベシ

第二條　行政部

第一節　行政權ハ「フイリピン」共和國大統領ニ附與セラルベシ

第二節　大統領ハ法律ニ依リ定メラルベキ場所及期日ニ於テ國民議會ノ全議員ノ過半數ニ依リ選擧セラルベシ

第三節　何人ト雖モ年齡四十歲以上ニシテ選擧ノ直前少クトモ十年間「フイリピン」國ニ居住シタル「フイリピン」國ノ生來ノ市民タル者ニ非ザレバ大統領ニ選擧セラルルコトヲ得ズ

第四節　大統領ハ六年間在職スベク次期ハ再選セラルルコトヲ得ズ

第五節　大統領ノ任期ハ其ノ選擧後ノ六年ノ滿了ニ次グ十二月三十日ノ正午ニ終了スベク其ノ後任者ノ任期ハ右ノ時刻ヨリ開始スベシ後任者ガ右ノ時迄ニ選定セラレ居ラザルカ又ハ大統領當選者ガ資格ヲ具ヘザリシトキハ退任大統領ハ其ノ後任者ガ選擧セラレ且資格ヲ具フルニ至ル迄引續キ在職スベシ大統領ノ免職又ハ其ノ死亡、辭職若ハ其ノ職權及職務ノ執行不能ノ場合ニ於テハ大統領ノ職ハ新大統領ガ殘存任期ニ對シ選擧セラルルニ至ル迄法律ノ定ムル席次ニ依ル上席大

臣ニ移行スベシ後ノ場合ニ於テハ選擧ハ右免職、死亡、辭職又ハ不能ノ生ジタル後六十日以内ニ行ハルベシ

第六節　大統領ハ其ノ就任ニ先チ左ノ宣誓又ハ確言ヲ爲スベシ

「余ハ忠實ニ且良心ニ從ヒ「フイリピン」共和國大統領トシテノ余ノ職責ヲ果シ、「フイリピン」國ノ憲法ヲ保持擁護シ其ノ法令ヲ執行シ各人ニ對シ正義ヲ行ヒ且國家ヘノ奉公ニ盡瘁スベキコトヲ茲ニ嚴肅ニ誓フ(又ハ確言スル)モノナリ神ヨ願ハクバ照覽アレ」(確言ノ場合ニハ最後ノ句ヲ略スベシ)

第七節　大統領ハ官邸ヲ有シ且法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受クベシ右報酬ハ大統領ノ在任期間中增加セラレ又ハ減少セラルルコトナカルベシ大統領ハ右期間中政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關ヨリ他ノ何等ノ給與ヲモ受クルコトナカルベシ

第八節　大統領ハ一切ノ省、部局又ハ官署、一切ノ地方政廳及行政部ノ他ノ一切ノ部門又ハ代理機關ヲ監督統轄シ且法令ガ忠實ニ執行セラルル樣注意スベシ

第九節　大統領ハ「フイリピン」共和國ノ一切ノ軍隊ノ總司令官タルベク且必要アルトキハ不法行爲、侵略、暴動又ハ叛亂ヲ防止シ又ハ鎭壓スル爲右軍隊ヲ出動セシムルコトヲ得侵略、暴動若ハ叛亂又ハ其ノ危險ノ急迫ノ場合或ハ公共ノ安全上必要ナル場合ニハ大統領ハ人身保護令ノ特權ヲ停止シ又ハ「フイリピン」國若ハ其ノ何レノ部分ニモ戒嚴令ヲ布クコトヲ得

第十節　大統領ハ大臣及次官ヲ任命シ且大使、公使、領事、部局及官署ノ長、大佐ノ階級以上ノ陸軍士官、大佐又ハ中佐ノ階級以上ノ海軍及空軍士官、州知事、市町村長竝ニ任命ニ關シ法律ニ別段ノ規定ナキ他ノ一切ノ官吏ヲ內閣ノ諮問ヲ經テ任命スベシ

第十一節　國策ニ關シ大統領ノ諮問ニ應ズル爲參議會ヲ設クベシ參議會ハ國家ニ對シ顯著ナル功績アリタル市民中ヨリ大統領ガ任命スベキ二十名ヲ超エザル議員ヲ以テ組織セラルベシ

第十二節　大統領ハ國民議會ノ全議員ノ三分ノ二ノ同意ヲ得ルトキハ宣戰及媾和ヲ爲スノ權能ヲ有スベク又全議員ノ過半

數ノ同意ヲ得ルトキハ條約ヲ締結スルノ權能ヲ有スベシ大統領ハ「フイリピン」共和國ニ適法ニ派遣セラレタル大使及公使ヲ接受スベシ

第十三節　大統領ハ其ノ課スルヲ適當ナリト認ムル條件及制限ノ下ニ一切ノ犯罪ニ付有罪ノ判決後ニ於テ執行猶豫減刑及赦免ヲ許與シ竝ニ罰金及沒收ヲ免除スルノ權能ヲ有スベシ大統領ハ國民議會ノ同意ヲ得テ大赦ヲ行フノ權能ヲ有スベシ

第十四節　大統領ハ國ノ狀況ニ關シ時時國民議會ニ報告ヲ爲シ其ノ必要且便宜ナリト認ムル方策ヲ提示シテ議會ノ審議ヲ勸告スベシ

第三條　立法部

第一節　立法權ハ國民議會ニ付與セラルベシ

第二節　國民議會ハ職務上ノ議員トシテノ州知事及市長竝ニ各州及各特別市ヨリ三年毎ニ一名ヅツ選擧セラルベキ代表者ヲ以テ組織セラルベシ議員ノ選擧ノ期日及方法竝ニ闕員ノ補充方法ハ法律ニ依リ定メラルベシ右法律ハ大東亞戰爭中ハ變更セラレ又ハ修正セラルルコトナカルベシ

第三節　何人ト雖モ「フイリピン」國ノ市民タルコト五年ニ及ビ且年齡三十歲以上タルニ非ザレバ國民議會議員ニ選擧セラルルコトナカルベシ

第四節　㈠國民議會ハ法律ニ依リ定メラルベキ期日ニ於テ毎年一回通常會期ヲ開催スベシ但シ日曜日ヲ除キ六十日ヲ超エ繼續スルコトナカルベシ國民議會ハ又一般法令ヲ又ハ大統領ガ指定スル問題ノミヲ審議スル爲大統領ニ依リ其ノ定ムル期間內特別會期トシテ招集セラルルコトヲ得

㈡國民議會ハ其ノ議長、一名ノ書記役、一名ノ守衞役其ノ他必要ナル職員ヲ選任スベシ全議員ノ過半數ハ事務執行ノ定足數ヲ構成ス但シ議員數ガ右定足數ニ滿タザルトキハ日程ヲ順延スルコトヲ得ベク又國民議會ノ定ムル方法及罰則ヲ以テ闕席議員ノ出席ヲ强要スルコトヲ得

㈢國民議會ハ其ノ選擧セラレタル議員ノ選擧、得票及資格ニ關シ唯一ノ判定者タルベク且其ノ議事規則ヲ定メ秩序ヲ紊ス行爲ニ對シ議員ヲ罰シ及三分ノ二ノ同意ヲ得テ議員ヲ除名スルコトヲ得國民議會ハ其ノ議事日誌ヲ保存スベク且祕密ヲ要スト認ムル部分ヲ除クノ外時時之ヲ公表スベシ如何ナル問題ニ對スル贊成投票者不贊成投票者モ出席議員ノ五分ノ一ノ要求アル場合ニハ之ヲ議事日誌ニ記入スベシ

第五節　國民議會ノ議長及議員ハ法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受ク但シ國民議會ノ會議ニ出席ノ際ノ各自ノ州又ハ都市ヨリノ往復旅費ハ右ニ含マレザルモノトス國民議會ハ其ノ議長及議員ノ報酬ヲ其ノ任期中ニ於テ增加スル權能ヲ有セザルベシ

第六節　國民議會ノ議員ハ國民議會ノ會議ニ出席中及國民議會ヘノ往復ノ途次ニ於テ逮捕セラレザルノ特權ヲ有ス但シ法律ニ依リ定メラルル刑ガ死刑又ハ十二年ヲ超ユル禁錮タル犯罪ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ議會ニ於ケル如何ナル演說又ハ討議ニ付テモ議會以外ノ場所ニ於テ質問セラルルコトナカルベシ

第七節　㈠大統領ハ國民議會ノ各通常會期ノ開會期日ヨリ十日以內ニ一般支途振當法案ノ基礎タルベキ收支豫算書ヲ提出スベシ

㈡會計年度末ニ際シ次年度ノ政府維持ニ必要ナル支途振當ガ爲サレ居ラザルトキハ其ノ前年度ノ支途振當法案中ニ於テ振當テラレタル各金額ハ大統領ガ可能ナリト判斷スル限リ一般支途振當法案ガ可決セラルルニ至ル迄右法案中ニ特定セラレタル各目的及用途ニ對シ再ビ振當テラレタルモノト看做サルベシ

㈢一般支途振當法案中ノ或特定ノ支途振當ニ特ニ關係アルモノニ非ザレバ如何ナル規定又ハ法令モ一般支途振當中ニ包含セラルルコトナカルベシ又右ノ規定又ハ法令ハ其ノ適用ニ付テハ右支途振當ノミニ局限セラルベシ

第八節　大臣ハ其ノ發意又ハ國民議會ノ要求ニ基キ國民議會ニ出席シテ自省ノ所管事項ニ關シ意見ヲ開陳スルコトヲ得但シ公益上右意見ヲ開陳セザルコトヲ必要トシ且大統領ニ於テ其ノ旨ヲ書面ニ依リ陳ベタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九節　㈠國民議會ヲ通過セル法案ハ大統領ニ依リ裁可セラルルニ非ザレバ法律ト爲ルコトナカルベシ大統領ハ右法案ヲ裁可スル場合ニハ之ニ署名スベク又裁可セザル場合ニハ其ノ反對理由ヲ具シテ之ヲ國民議會ニ返付スベシ國民議會ハ其ノ議事日誌中ニ右反對理由ヲ詳細ニ記載スベク又右法案ヲ再審議シ全議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ之ヲ再可決スルコトヲ得右ノ如キ一切ノ場合ニ於テハ國民議會ノ表決ハ贊否ノ投票ニ依リテ決セラルベク又贊成又ハ反對ノ投票ヲ爲セル議員ノ氏名ハ議事日誌ニ記載セラルベシ大統領ガ法案ヲ再度否認スルトキハ國民議會ハ同一會期中ニ於テ右法案ヲ再審議シ之ヲ再可決スルコトヲ得ズ法案ガ大統領ニ提出セラレタル後二十日以內(日曜日ヲ除ク)ニ大統領ガ本憲法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ返付セザル場合ニハ右法案ハ大統領ガ之ニ署名シタルト同樣ニ法律ト爲ルベシ但シ國民議會ガ閉會ニ依リ右法案ノ返付ヲ妨ゲタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ右法案ハ議會ノ閉會後四十日以內ニ大統領ニ依リ拒否セラレザル限リ法律ト爲ルベシ

㈡大統領ハ支途振當ニ歲入又ハ關稅ニ關スル法案中ノ何レノ特定ノ一又ハ二以上ノ項目ヲモ拒否スルノ機能ヲ有スベシ但シ右拒否ハ大統領ノ反對セザル一又ハ二以上ノ項目ニ影響ヲ及ボスコトナカルベシ支途振當法案中ノ規定ガ該法案ノ一又ハ二以上ノ項目ニ影響ヲ及ボス場合ニハ大統領ハ右規定ノ關スル特定ノ一又ハ二以上ノ項目ヲ同時ニ拒否スルコトナクシテハ右規定ヲ拒否スルコトヲ得ズ

第十節　㈠法律トシテ制定セラルベキ法案ハ一箇ヲ超ユル主題ヲ包含スルコトナカルベク該主題ハ右法案ノ標題ニ於テ表示セラルベシ

㈡法案ハ其ノ最終ノ形式ニ於ケル謄本ガ國民議會ノ該法案可決ノ少クトモ三歷日前ニ議員ニ提供セラルルニ非ザレバ可決セラレ又ハ法律ト爲ルコトナカルベシ但シ大統領ニ於テ右法案ヲ卽時法律トシテ制定スルノ要アルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ法案ノ最終讀會終了スルトキハ其ノ修正ハ許サレザルベク又右法案ヲ最終的ニ可決スベキカ否カノ問題ハ最終讀會後直ニ付議セラレ贊成投票者又ハ不贊成投票者ハ議事日誌ニ記載セラルベシ

第十一節　㈠特別ノ目的ノ爲賦課セラレタル租稅ニ依ル一切ノ徵收金ハ特別基金トシテ取扱ハレ右目的ニノミ支出セラルベシ特別基金ヲ設定シタル目的ガ達成セラレ又ハ拋棄セラレタル場合ニ殘額アルトキハ該殘額ハ政府ノ一般基金ニ移サルベシ

㈡如何ナル金額モ法律ニ依リ爲サレタル支途振當ニ依ル場合ヲ除クノ外國庫ヨリ支出セラルルコトナカルベシ

㈢公金又ハ公ノ財產ハ宗派、敎會、分派、宗派ノ施設又ハ宗敎的組織ノ使用、利益又ハ維持ノ爲或ハ僧侶、傳道師、牧師又ハ他ノ宗敎的敎師若ハ高位僧トシテノ敎師若ハ高位僧ノ使用、利益又ハ維持ノ爲ニ直接ニモ間接ニモ振當テラレ流用セラレ又ハ使用セラルルコトナカルベシ但シ右ノ僧侶、傳道師、牧師又ハ高位僧ガ軍隊又ハ刑事施設、孤兒院若ハ癩病保養院ニ配屬セシメラレ居ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二節　㈠課稅規則ハ一律タルベシ

㈡國民議會ハ其ノ定ムルコトアルベキ制限ニ從フノ條件ノ下ニ大統領ニ對シ關稅率、輸出入ノ割當、噸稅及波止場使用料ヲ特定ノ範圍內ニ於テ決定スルノ權限ヲ法律ヲ以テ付與スルコトヲ得

㈢墓地、敎會及敎會附屬ノ牧師住宅又ハ修道院竝ニ專ラ宗敎的、慈善的又ハ敎育的目的ニ使用セラルル一切ノ土地建築物及其ノ改修ハ租稅ヲ免除セラルベシ

第十三節　戰時又ハ他ノ國家的緊急時ニ於テハ國民議會ハ宣言セラレタル國策ノ遂行ノ爲規則及規程ヲ公布スルノ權限ヲ一定ノ期間中且議會ノ定ムル制限ニ從フノ條件ノ下ニ法律ヲ以テ大統領ニ付與スルコトヲ得

第十四節　國民議會閉會中ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ大統領ハ規則及命令ヲ公布スルコトヲ得右規則及命令ハ國民議會ノ次回ノ通常會期ノ終了ニ先チ決議ニ依リ否認セラルル迄法律トシテノ效力ヲ有スベシ

第四條　司法部

第一節　司法權ハ大審院及法律ニ依リ設置セラルルコトアルベキ下級裁判所ニ付與セラルベシ

第二節　國民議會ハ各種ノ裁判所ノ管轄權ヲ明定シ規定シ及割當ツルノ權能ヲ有スベシ但シ大使、公使及領事ニ關聯セル事件ニ對スル第一審管轄權ヲ大審院ヨリ奪フコトヲ得ザルベク又法律、命令、行政命令又ハ規則ノ合憲性ガ問題トナリ或ハ裁判所ノ管轄權ガ論爭點ト爲リ又誤謬若ハ法律問題ノミガ含マルル一切ノ事件ニ於ケル下級裁判所ノ最終判決及命令ヲ法律又ハ裁判所規則ノ定ムル所ニ從ヒ控訴、訴訟書類移送命令又ハ再審命令ニ基キ再審シ變更シ破棄シ修正シ又ハ確認スルノ管轄權ヲ大審院ヨリ奪フコトヲ得ズ

第三節　法律ニ別段ノ規定ナキ限リ大審院ハ判事タル大審院長及六名ノ判事ヲ以テ組織セラルベシ

第四節　大審院判事ハ內閣ノ諮問ヲ經テ大統領ニ依リ任命セラルベシ下級裁判所ノ一切ノ判事ハ大審院ノ諮問ヲ經テ大統領ニ依リ任命セラルベシ

第五節　何人ト雖モ年齡四十歲以上ニシテ少クトモ十年以來「フイリピン」國ニ於テ記錄裁判所ノ判事タリシカ又ハ法律事務ニ從事シ來レル「フイリピン」國市民タル者ニ非ザレバ大審院判事ニ任命セラルルコトヲ得ズ

第六節　國民議會ハ下級裁判所ノ判事ノ資格ヲ定ムベシ但シ何人ト雖モ「フイリピン」國ニ於テ法律事務ニ從事スルコトヲ許サレタル「フイリピン」國市民タル者ニ非ザレバ右裁判所ノ判事ニ任命セラルルコトヲ得ズ

第七節　大審院判事及下級裁判所ノ判事ハ其ノ職務ヲ遂行シ能ハザルニ至ル迄ハ其ノ行狀善良ナル限リ其ノ職ヲ保持スベシ右判事ハ法律ニ依リ定メラルル報酬ヲ受クベク該報酬ハ政府ノ一切ノ官吏及雇傭人ノ俸給ノ一般的改正ノ場合ヲ除キ其ノ在職中減額セラルルコトヲ得ズ

第八節　判決ヲ求ムル爲大審院ニ附託セラレタル事件ニ關スル大審院ノ結論ハ大審院ノ意見ヲ記載スル爲右事件ガ一名ノ判事ニ割當テラルルニ先チ合議ノ上定メラルベシ決定ニ不同意ナル判事ハ其ノ不同意ノ理由ヲ陳述スベシ

第九節　如何ナル法律又ハ行政命令、命令若ハ規則ト雖モ大審院判事ノ全員一致ノ表決ナクシテハ憲法違反ト宣告セラルルコトヲ得ズ

第十節　記錄裁判所ハ判決ノ根據タル事實及法律ヲ判決中ニ明瞭ニ表示スルニ非ザレバ如何ナル判決ヲモ下スコトナカルベシ

第十一節　大審院ハ一切ノ裁判所ニ於ケル答辯、裁判手續及訴訟手續竝ニ法律事務從事ノ許可ニ關スル規則ヲ公布スルノ權能ヲ有スベシ右規則ハ同一階級ノ一切ノ裁判所ニ對シテハ一律タルベク且右裁判所ノ本質的權利ヲ縮少シ增加シ又ハ修正スルコトナカルベシ答辯、裁判手續及訴訟手續ニ關スル一切ノ現行法律ハ大審院ニ依リ變更セラレ又ハ修正セラルルコトアルベシ

第五條　彈劾

第一節　大統領及大審院判事ハ罰セラルベキ憲法違反、叛逆、贈收賄又ハ他ノ重大犯罪ニ對スル彈劾及右ニ關スル有罪判決ニ因リ免職セラルベシ

第二節　國民議會ハ其ノ議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ彈劾ノ權能ヲ專有スベシ

第三節　大審院ハ一切ノ彈劾ヲ審理スルノ權能ヲ專有スベシ何人ト雖モ大審院ノ全判事ノ四分ノ三ノ同意アルニ非ザレバ有罪ノ判決ヲ受クルコトナカルベシ

第四節　彈劾事件ノ判決ハ免職及「フイリピン」共和國ノ政府ノ下ニ於テ名譽、信用又ハ利得ヲ伴フ職ニ就キ且之ヲ享有スルノ資格ノ剝奪以上ニ及ブコトナカルベシ但シ有罪ノ判決ヲ受ケタル當事者ハ右ニ拘ラズ法律ニ從ヒ訴追セラレ審理セラレ且罰セラルベシ

第六條　市民權

第一節　左ノ者ヲ「フイリピン」國市民トス

(一)本憲法採擇ノ時ニ「フイリピン」國市民タル者及其ノ子孫

(二)法律ニ從ヒ歸化セル者

第二節　「フイリピン」國市民權ハ法律ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ喪失シ又ハ再取得スルコトヲ得

第七條　市民ノ義務及權利

第一節　法律ノ要求スル文武ノ役務ニ服シ租稅及公課ヲ支拂ヒ竝ニ有用ナル生業、業務又ハ職業ニ從事スルコトハ一切ノ市民ノ義務ナリトス

第二節　何人ト雖モ正當ナル法律上ノ手續ヲ經ズシテ生命、自由又ハ財產ヲ剝奪セラルルコトナカルベク又何人ト雖モ法律ノ平等ナル保護ヲ拒否セラルルコトナカルベシ

第三節　宗教ノ創立ニ關スル又ハ宗教ノ自由ナル信奉ヲ禁止スル法律ハ制定セラルルコトナカルベク又市民權又ハ政治的權利ノ行使ニ付テハ何等ノ宗教上ノ宣誓ヲモ要スルコトナカルベシ

第四節　契約上ノ義務ヲ毀損スル法律ハ可決セラルルコトナカルベシ

第五節　遡及法ハ制定セラルルコトナカルベシ

第六節　何人ト雖モ負債ノ故ヲ以テ投獄セラルルコトナカルベシ

第七節　意思ニ反スル服役ハ如何ナル形式ノモノタルヲ問ハズ存在スルコトナカルベシ但シ當事者ガ適法ニ有罪ト判定セラレタル犯罪ニ對スル刑罰トシテノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八節　人身保護令ノ特權ハ停止セラルルコトナカルベシ但シ侵略、暴動若ハ叛亂ノ場合又ハ公安上必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九節　私有財產ハ公正ナル補償ナクシテハ公共ノ用ニ供スル爲收用セラルルコトナカルベシ

第十節　何人ト雖モ貧窮ヲ理由トシテ裁判又ハ行政裁判所ニ於ケル自由ノ訴訟ヲ拒マルルコトナカルベシ

第十一節　平和、道德、衞生、安全又ハ公安ノ爲法律ニ依リ課セラルル制限ニ從フニ於テハ

（一）不當ノ搜索及差押ニ對シ安全ナルノ權利ハ侵サルルコトナカルベシ

(二)通信及信書ノ祕密ハ侵サルルコトナカルベシ
(三)法律ニ違反セザル目的ノ爲組合又ハ結社ヲ組織スルノ權利ハ侵サルコトナカルベシ
(四)宗教上ノ表白及禮拜ノ差別及優先權ナキ自由ナル享有及實行ハ制限セラルルコトナカルベシ
(五)法律ノ定ムル範圍内ニ於ケル居住及住居變更ノ自由ハ毀損セラルルコトナカルベシ
(六)言論若ハ出版ノ自由又ハ平穩ニ集合シテ不法ヲ匡救スルコトヲ政府ニ請願スルノ國民ノ權利ハ剝奪セラルルコトナカルベシ

第八條　天然資源ノ保存及利用

第一節　「フイリピン」國ノ公有地ノ一切ノ農地、採木地及採鑛地、水、鑛物、石炭、石油及他ノ鑛油、潛在「エネルギー」ノ一切ノ源泉竝ニ他ノ天然資源ハ國ニ屬シ其ノ處分、採取、開發又ハ利用ハ「フイリピン」國市民又ハ資本ノ少クトモ六十「パーセント」ガ「フイリピン」國市民ニ依リ所有セラルル會社若ハ組合ニ局限セラルベシ但シ本憲法ニ基ク政府ノ創立ノ時ニ現存スル一切ノ權利、許可租借地權又ハ特惠ハ此ノ限ニ在ラズ天然資源ハ公有農地ヲ除クルノ外讓渡セラルルコトナカルベク又何レノ天然資源ノ採取、開發又ハ所有ニ關スル免許、特許又ハ租借モ二十五年ヲ超ユル期間ニ付許可セラルルコトナカルベシ右許可ハ更ニ二十五年ニ付更新セラルルコトヲ得但シ灌漑、給水、漁業又ハ水力開發以外ノ工業的用途ニ關スル水利權ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ有益ナル使用ヲ以テ許可ノ標準及限度トス

第二節　如何ナル私立會社又ハ組合ト雖モ千二十四ヘクタールヲ超ユル公有農地ヲ取得シ、租借シ又ハ保有スルコトヲ得ズ又如何ナル個人ト雖モ右土地ヲ購入ニ依リ百四十四ヘクタール、租借ニ依リ千二十四ヘクタール又ハ開墾地特別分讓ニ依リ二十四ヘクタールヲ超エ取得スルコトヲ得ズ二千ヘクタールヲ超エザル牧畜ニ適スル土地ハ之ヲ個人、私立會社又ハ組合ニ賃貸スルコトヲ得ズ

第三節　國民議會ハ個人、會社又ハ組合ガ取得保有シ得ル私有農地ノ面積ヲ法律ヲ以テ決定スルコトヲ得但シ右法律ノ制定前ニ存在スル權利ハ之ニ服從スベキモノトス

第四節　國民議會ハ小區劃ニ分割セラレ且實費ヲ以テ個人ニ讓渡セラルベキ土地ヲ公正ナル補償ヲ支拂ヒテ收用スルノ權限ヲ付與スルコトヲ得

第五節　如何ナル私有農地ト雖モ「フイリピン」國ニ於テ公有地ニ關スル土地ヲ取得シ又ハ保有スルノ資格ヲ有スル個人、會社若ハ組合又ハ無遺言相續ノ場合ニ法律ニ依リ相續ノ權利ヲ付與セラルル者ニ對スル場合ヲ除クノ外移轉セラレ又ハ讓渡セラルルコトナカルベシ

第九條　一般規定

第一節　「フイリピン」共和國ノ國旗ハ「フイリピン」國民ニ依リ神聖視セラレ且尊敬セラレ居ル一箇ノ太陽及三箇ノ星ヲ配セル赤色、白色及青色トス

第二節　政府ハ國語トシテノ「タガログ」語ノ發達及普及ニ資スル措置ヲ執ルベシ

第三節　政府、其ノ部局及代理機關竝ニ法律ニ依リ規定セラルル者又ハ施設ノ歳入、受入金、基金ヨリノ支出及財產ニ關スル一切ノ勘定ヲ審査シ、檢査シ及決濟スベキ會計檢査院ヲ設置スベシ

第四節　政府ノ一切ノ部門及部局ヲ含ム民政廳ハ法律ヲ以テ設置セラルベシ民政廳ニ於ケル任命ハ政策ノ決定ニ關スルモノ本來祕密ヲ要スルモノ又ハ性質上高度ニ專門的ナルモノヲ除クノ外能フ限リ競爭試驗ニ依リ決定セラルベキ成績及適應性ノミニ從ヒ行ハルベシ

第五節　一切ノ官吏及軍人ハ憲法ヲ支持シ且之ヲ援護スル旨ノ宣誓ヲ爲スベシ

第六節　官吏又ハ雇傭人ハ法律ニ依リ特ニ許サレタルニ非ザレバ追加又ハ二重ノ俸給ヲ受クルコトナカルベシ

第七節　官吏及雇傭人ハ其ノ在職中如何ナル職業ニモ從事スルコトナカルベク又其ノ職務ノ執行ニ依リ何等カノ影響ヲ受

クルコトアルベキ私企業ノ經營又ハ管理ニ直接又ハ間接ニ關與シ或ハ政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關トノ契約ニ直接又ハ間接ニ財的利害關係ヲ有スルコトナカルベシ

第八節　一切ノ國民ノ福祉及經濟的安定ヲ確保スル爲ノ社會正義ノ助長ハ國ノ關心事タルベシ

第九節　國ハ科學上ノ研究及發明ヲ助長スベシ美術及文藝ハ國ノ保護ヲ受クベシ著作物及發明品ニ對スル獨占權ハ一定ノ期間內著作者及發明者ニ對シ保障セラルベシ

第十節　一切ノ教育機關ハ國ノ監督及統制ノ下ニ置カルベシ政府ハ完全且適當ナル國民教育制度ヲ創設維持シ且少クトモ無料ノ公衆初等教育及成年市民ニ對スル市民訓練ヲ施スベシ一切ノ學校、專門學校及大學ハ德性、個人的及團體的紀律、市民的良心竝ニ職業的熟練ヲ啓發シ社會的能率ヲ確保スルコト竝ニ市民ノ義務ヲ教フルコトヲ目的トスベシ選擇科目トシテノ宗教教育ハ現在法令ニ依リ許サルル如ク公立學校ニ於テ維持セラルベシ國ハ特ニ才能アル市民ノ爲ニ美術、科學及文藝ニ關スル奬學金制度ヲ設クベシ

第十一節　國ハ勞働者特ニ勞働ニ從事スル女子及未成年者ニ對シ保護ヲ與フベク又地主ト小作人トノ間竝ニ產業及農業ニ於ケル勞資間ノ關係ヲ調整スベシ國ハ强制調停ノ制度ヲ設クルコトヲ得

第十二節　國ハ國民ノ福祉又ハ國防ノ爲產業竝ニ運輸及通信ノ機關ヲ創設經營シ又政府ニ依リ經營セラルル爲公正ナル補償ヲ支拂ヒテ公益事業及他ノ私企業ヲ公有ニ移スコトヲ得

第十三節　公益事業ノ經營ニ關スル如何ナル特許、免許又ハ他ノ如何ナル形式ノ許可ト雖モ「フイリピン」國市民又ハ「フイリピン」國ノ法律ニ基キ組織セラレタル會社若ハ他ノ團體ニシテ其ノ資本ノ六十「パーセント」ガ「フイリピン」國市民ニ依リ保有セラルルモノニ對スル場合ヲ除クノ外付與セラルルコトナカルベク又右ノ特許、免許又ハ許可ハ性質上獨占的タルコト又ハ五十年ヲ超ユル期間ニ對スルモノタルコトナカルベシ如何ナル特許又ハ權利ト雖モ公益上必要アル場合ニハ國民議會ニ依リ修正セラレ變更セラレ又ハ取消サルベシトノ條件ノ下ニ於テニ非ザレバ如何ナル個人、商社

又ハ會社ニ對シテモ許與セラルルコトナカルベシ

第十四節　國民議會ハ一般的法律ヲ以テスル場合ヲ除クノ外私立會社ノ設立、組織又ハ取締ニ關シ規定ヲ設クルコトナカルベシ但シ右會社ガ政府又ハ其ノ部局若ハ代理機關ニ依リ所有セラレ又ハ管理セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　修正

第一節　國民議會ハ其ノ全議員ノ三分ノ二ノ表決ニ依リ本憲法ニ對スル修正ヲ提議スルコトヲ得但シ右修正ハ之ガ爲ニ且法律ニ依リ定メラルベキ期日及條件ノ下ニ特ニ招集セラレタル人民投票又ハ會議ニ於テ國民ニ依リ承認セラルルニ非ザレバ本憲法ノ一部トシテ效力ヲ有スルコトナカルベシ

第十一條　過渡的規定

第一節　本憲法ハ承認ノ目的ノ爲特ニ招集セラレタル人民投票又ハ會議ニ於テ國民ニ依リ承認セラルベシ右人民投票又ハ會議ノ開催方法ハ法律ニ依リ定メラルベシ

第二節　第一回國民議會ハ法律ノ定ムル場所及期日ニ於テ招集セラレ其ノ成立後直ニ「フイリピン」共和國大統領ヲ選擧スベシ

第三節　「フイリピン」行政府ノ現在ノ行政各部ハ國民議會ガ法律ニ依リ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄共和國ノ各省トシテ存續スベシ

第四節　「フイリピン」國ノ一切ノ法律ハ共和國ノ創立ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ爾後右法律ハ本憲法ニ牴觸セザル限ニ於テハ國民議會ニ依リ修正セラレ改正セラレ變更セラレ又ハ廢棄セラルルニ至ル迄引續キ有效タルベク又右法律中ニ於テ「フイリピン」國又ハ「フイリピン」行政府ノ政府又ハ官吏ト稱スルハ適用シ得ル限ニ於テ共和國ノ下ニ於ケル政府、官吏又ハ之ニ該當スル官吏ヲ指スモノト解セラルベシ

第五節　本憲法採擇ノ際現存スル一切ノ裁判所ハ本憲法ノ規定ニ牴觸セザル限ニ於テハ本憲法ニ從ヒ法律ニ依リ別段ノ規

定ガ設ケラルルニ至ル迄存續シ其ノ管轄權ヲ行使スベシ但シ右裁判所ニ繫屬スル一切ノ民事及刑事ノ事件ハ當該時ニ實施中ノ法律ニ基キ審理セラレ裁判セラレ且判決セラルベシ

第六節　「フイリピン」行政委員會ノ下ニ於ケル政府ノ一切ノ官吏及雇傭人ハ國民議會ガ別段ノ規定ヲ設クルニ至ル迄引續キ在職スベシ但シ本憲法ニ依リ任命權ガ大統領ニ付與セラレタル一切ノ官吏ハ其ノ後任者ノ任命及資格具備ト共ニ各自ノ職ヲ退クベシ

第七節　本憲法ニ規定セラルル禁止及制限ニ拘ラズ「フイリピン」共和國大統領ハ天然資源ノ利用及公益事業ノ經營ニ關シ外國ト協定ヲ締結スルコトヲ得右協定ハ大東亞戰爭ノ終了ト共ニ失效スベシ

第八節　大東亞戰爭ノ勃發以後自然人、團體又ハ會社ニ依リ取得セラレタル一切ノ財產權及特權ハ右戰爭ノ終了ト共ニ調整セラレ且解決セラルベシ

第九節　本憲法ノ規定ハ本條ニ揭ゲラルルモノ竝ニ本憲法ニ基キ選擧セラルベキ官吏ノ選擧及資格ニ關スルモノヲ除クノ外「フイリピン」共和國ノ創立ニ至ル迄效力ヲ生ゼザルベシ

第十二條　特別規定

第一節　國民議會ハ大東亞戰爭ノ終了後一年以內ニ憲法會議ヘノ代表者ノ普通選擧ニ依ル選擧ノ準備ヲ爲スベシ右會議ハ新憲法ノ起草及採擇ノ爲右代表者ノ選擧後六十日以內ニ開催セラルベシ新憲法ハ國民ガ特ニ開催セラルベキ人民投票ニ於テ之ヲ承認スルト同時ニ效力ヲ生ズベシ右承認アリタル後國民議會ハ直ニ新憲法ニ基ク官吏ノ選擧及政府ノ創立ノ準備ヲ爲スベシ

附屬第五

六、比島獨立指導要綱ニ基ク現地指導腹案

第一　外交

一、方針

外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

二、要領

㈠比島政府成立セバ自ラ樞軸諸國及中立國ニ對シ獨立ノ事實ヲ通告スルト共ニ親交關係ノ設定ヲ求メシム

㈡外交使臣ノ交換ハ先ヅ帝國トノ間ニ行ヒタル後逐次大東亞ノ諸國等ニ及ブ如ク指導ス

「ローマ」法王廳及「スペイン」關係竝ニ「スペイン」其ノ他ノ領事ニ付テハ別途考慮ス

㈢獨立ト同時ニ締結スベキ日比間ノ條約ハ必要最少限度ノ條約ノミトス

㈣帝國軍隊ノ爲ノ便宜供與、施設ノ擔任、戰時ノ指揮權等軍事ニ關スル事項ハ軍事協定ニ據リ其ノ他ノ事項ハ努メテ事實上ノ指導措置ニ據リ又ハ外交上ノ往復文書ノ形式ニ據ルコトトシ正式取極ノ形式ハ努メテ之ヲ避ク

㈤獨立ニ伴ヒ適時米英ニ對シ宣戰セシム

宣戰ニ至ラザル時期ニ於テモ大東亞戰爭完遂ノ爲實質的ニ有ユル協力ヲ爲スモノトス

第二　軍事及警務

一、比島國軍及警察隊

差當リ比島警察隊ヲ以テ一般警察ヲ擔任セシムルノ外國內治安ノ確保及防空、沿岸(內海)防備ニ任ゼシメ爾後逐次必要ナルモノヲ改編シテ比島陸海軍ヲ建設スル如ク指導ス

右指導ニ必要ナル軍事顧問ヲ置ク

二、日比間軍事上ノ重要事項ハ其ノ大綱ニ付軍事協定ヲ以テ之ヲ律ス

記載事項概ネ左ノ如シ

㈠帝國軍ニ對スル便宜供與ニ關スル事項
㈡比島國軍ノ戰時ノ作戰用兵及比島警察隊ノ軍事行動ニ對スル指揮ニ關スル事項
三、前號以外ノ日比間軍事上ノ關係ヲ律スベキ細部事項ハ前項協定ニ附屬セシムベキ細部協定ニ據ルカ又ハ事實上ノ指導ニ據ル

之ガ主要事項概ネ左ノ如シ

㈠帝國軍ニ對スル土地建物等ノ提供ニ關スル件
㈡帝國軍ニ對スル施設ノ擔任ニ關スル件
㈢作戰上ノ必要ニ基ク交通、通信ノ利用及軍需品ノ供出等ニ關スル件
㈣軍法會議、軍律會議ノ適用範圍ニ關スル件
㈤帝國軍憲兵ノ軍事上ノ必要ニ基ク警務執行容認ニ關スル件
㈥帝國陸海軍最高指揮官ノ比島官憲ニ對スル比島防衛ニ必要ナル統制ニ關スル件

第三　顧問等ニ關スル事項

一、軍事、警務、財務等比島ノ希望スル部門ニ顧問ヲ又比島育成強化及大東亞戰爭完遂ノ爲必要ナル部門ニ技術顧問等ヲ設ク
二、顧問及技術顧問ノ身分及給與ハ別ニ之ヲ定ム

第四　產業

產業ニ就テハ帝國軍ノ作戰ニ直接關係アルモノ及帝國ノ戰時需要ニ至緊ノ重要性アルモノハ戰時帝國側ニ於テ經營スルモ其ノ他ハ努メテ比島國側ノ創意ト責任トニ委スルモノトシ其中作戰ニ關係特ニ深キモノ及大東亞建設上特ニ必要ナルモノハ其實質ヲ帝國ニ於テ把握スル如クス

其ノ措置ノ概要左ノ如シ

一、左ノ各號企業ニシテ現ニ日本側ノ經營ニ屬スルモノハ其ノ權原及形式ノ如何ヲ問ハズ戰時帝國側ニ於テ之ヲ經營ス

尙必要ニ應ジ帝國側ノ新ナル企業經營ヲ認メシム

㈠重要鑛山

㈡「ブタノール」產業

㈢兵器及軍需品製造修理工業

㈣重要ナル造船

㈤重要ナル鑛山機械製造修理工業

二、左ノ各號ノ企業ノ內特ニ必要ナルモノハ當分ノ內帝國側ニ於テ其ノ實質ヲ把握ス

但シ狀況之ヲ許スニ從ヒ比島側ノ經營ニ委スル如ク措置ス

㈠一、以外ノ鑛山及炭鑛

㈡一、以外ノ造船及鑛山機械製造修理工業

㈢自動車修理及組立工業

㈣重要ナル製材

㈤電力事業

㈥液體燃料ノ配給

㈦棉花ノ栽培及蒐貨ニ關スル事業

㈧麻、椰子ノ收買、蒐貨及加工ニ關スル事業

三、爾餘ノ企業及舊比島政府國立諸會社ニ關スル事業ハ成ルベク速ニ比島側ノ經營ニ委スル如ク措置ス

但シ特別ノ必要アルモノニ付テハ帝國側ノ經營及企業參加ヲ妨グルコトナシ

四、既進出ノ日本側企業擔當者ニ對シテハ獨立ニ伴フ政治的要請ヲ考慮スルモ特ニ不利ナラザル如ク措置ス

第五　交通及通信

獨立指導要綱一九ニ依リ交通及通信ハ比島ノ主權下ニ置クモ主要ナルモノニ關シテハ帝國ノ要請ヲ認メシムル如クス其措置ノ概要左ノ如シ

一、鐵道及國內電氣通信ハ成ルベク速ニ比島側ノ經營ニ委スルモノトシ軍ノ直營スル期間ハ最少限ニ止ム

尙帝國側ノ企業參加ヲ妨ゲザルト共ニ帝國軍ハ右ニ對シ軍事上必要ナル要求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

二、郵政ハ比島ノ國營トス

三、重要自動車運輸事業ハ鐵道關係ト同一ノ企業體タラシム

四、比島內ノ主要海上交通事業ハ成ルベク速ニ比島ノ民有民營ノ方式ニ依リ比島法人ノ日比合辨ノ形態タラシム

尙當分ノ間日本側船舶ノ前項航路ニ就航スルヲ妨ゲズ

五、港灣ハ國有國營ノ方式ニ依ルモ軍事上重要ナルモノニ就テハ當分ノ間帝國軍ニ於テ管理經營ス

六、國外主要海上交通及國外電氣通信ハ當分ノ間帝國側之ヲ經營ス

七、無線放送事業ハ差當リ軍ニ於テ運營シ狀況之ヲ許スニ至ラバ國內電氣通信事業ト合一經營セシム

八、航空事業ハ帝國側之ニ任ジ將來ニ於テハ國內航空ヲ比島側ニ委シ得ル如ク逐次之ガ培養助長ヲ圖ルモノトス

第六　財政、金融

一、財政ハ成ルベク速ニ自立シ得ル如ク指導援助ス

已ムヲ得ズ生ジタル財政上ノ不足ニ付テハ帝國ハ差當リ南方開發金庫ヨリノ貸上ニ依リ所要ノ財政援助ヲ與フ

二、戰時豫算ハ編成ニ當リ戰爭目的完遂上必要ナル經費ハ優先的ニ計上セシム

三、當分ノ間關稅率特ニ輸出稅率ニ付テハ帝國ト協議セシメ大東亞圈內ノ交易ノ圓滑ナル遂行ニ協力スルト共ニ其ノ交易形態ト調和セシムル如ク考慮スルモノトス

四、新ニ中央銀行ニヨル發券機構ヲ整備シ通貨制度ヲ確立ス通貨制度確立ノ爲必要アル場合ハ帝國側ニ於テ所要ノ借款ヲ供與ス

新通貨發行ニ伴ヒ南方開發金庫券ノ發行ヲ停止ス既發南發券(軍票ヲ含ム)ノ整理ハ帝國側ニ於テ之ヲ行ヒ在來通貨ノ整理ハ比島側ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ其最終的處理ハ別途定ム

通貨制度確立後中央銀行ヲシテ我方ノ所要資金ノ圓滑ナル調達ニ遺憾ナカラシム

五、通貨、金融上ノ施策ニシテ對外的關係ヲ有スルモノニ就テハ帝國ト密ニ協議セシム

帝國ノ指導ハ左記ニ準據ス

㈠新通貨ノ對日換算率ハ帝國ノ決定ニ從ハシム

㈡對外決濟ハ日本圓ニ依リ帝國ヲ通ジテ行ハシム

㈢爲替管理ハ帝國ノ方針ニ協調實施セシム

㈣帝國以外ノ第三國ト財政、金融等ニ關スル取極ヲ爲サントスル時ハ豫メ帝國ニ協議セシム

第七　交易

一、日比間及比島ト他地域トノ重要物資ノ交流ハ差當リ帝國側ノ計畫ニ依リ帝國政府ノ買取拂下ノ方法ニ依ルモノトシ之ガ取扱ハ帝國ノ指定スル日本商社及帝國ノ承認スル比島商社ヲシテ擔當セシム

二、前號ノ輸送ハ當分ノ間主トシテ帝國側之ニ任ズ

三、前諸號以外ノ交易ハ努メテ比島側ヲシテ實施セシム

第八　宣傳報道

比島ニ於ケル宣傳報道ハ帝國指導ノ下努メテ比島側ヲシテ實施セシメ以テ一般民衆ニ對スル行政ノ滲透戰爭協力ニ資スルト共ニ敵側ノ策謀ヲ封止ス

一、新聞事業ハ速ニ邦字及華字新聞以外ハ之ヲ比島側ニ委ス

二、對內放送事業ハ之ヲ比島側ニ移讓スルモ差當リ日本側ニ於テ經營ス

三、宣傳報道等ノ指導機關ハ有力ナルモノヲ比島側ニ設ケシム

四、新聞及放送事業等ノ指導連絡機關トシテ日比間ニ連絡委員會ヲ設ク

第九　敵產處理

敵產ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把握スルヲ必要トスル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ比島ニ移讓ス其ノ具體的措置左ノ如シ

一、舊比島政府又ハ舊比島地方公共團體ノ所有シタル財產ハ獨立ト共ニ新政府又ハ當該地方公共團體ニ無償移讓ス

但シ爾後ノ運營ニ方リ重要ナルモノニ關シテハ帝國側ノ企業參加ヲ妨グルコトナシ

二、前號以外ノ敵產ハ取敢ズ左ノ各項ニ依リ運營シ其ノ最終處分ハ第三號ニ依ル

㈠第四產業及第五交通及通信ノ各號ニ基キ帝國側ニ於テ經營スル事業ニ關スル敵產ハ直營又ハ委託經營ノ形態ニ依リ運營ス

㈡第四產業及第五交通及通信ノ各號ニ基キ比島側ノ經營スル事業ニ關スル敵產ハ第一號ニ依リ比島ニ移讓スルモノヲ除キ帝國ニ於テ引續キ之ヲ管理スルモノトシ比島政府ヲシテ代行セシム

三、前號敵產ノ最終處分ハ概ネ左ノ各項ニ依リ比島ノ對日協力狀況特ニ參戰ノ時期及他地域ニ於ケル敵產處理ノ狀況等ヲ考慮シ獨立後適時之ヲ處理ス

㈠戰時帝國側ニ於テ經營スル企業中戰後ニ於テモ帝國ニ於テ把握スル特殊且重要ナルモノハ帝國ノ歸屬トス

㈡前項以外ノ敵産ハ比島側ニ有償又ハ無償ニテ移讓スルモ帝國ノ把握ヲ要スル企業ニ就テハ爾後ノ資本構成ニ付支障ナカラシムル如ク所要ノ措置ヲ講ズ

㈢敵産中清算ヲ必要トスルモノニ就テハ帝國側ニ於テ之ヲ完了シタル後最終處分ヲ行フモノトス

四、前各號ノ處理ニ依リ比島側ニ移讓シタル敵産中軍事施設ノ爲必要ナルモノハ戰時中我方ノ使用ニ供セシム

附屬第六

七、東條內閣總理大臣ヨリ比島獨立準備委員長一行ニ對スル示達

（昭和一八年九月二九日大本營政府連絡會議決定）

玆ニ比島獨立準備委員長御一行ヲ迎ヘ比島獨立ニ關スル帝國ノ意圖ヲ披瀝スルヲ得ルハ本大臣ノ最モ欣快トスル所ナリ抑々萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルハ帝國不動ノ國是ニシテ今般比島民衆多年ノ宿望タル新比島ノ獨立ヲ認ムルモノ亦此ノ國是ニ基クナリ而シテ新比島ノ獨立ニ關シ帝國ノ庶幾スル所ハ既ニ本大臣自ラ之ヲ述ベ又現地軍司令官ヲ通シ開陳セシ所ナリト雖今ヤ獨立ノ準備將ニ全カラントスルニ際シ更メテ獨立ニ關スル帝國ノ所信ヲ闡明セントス

第一　建國ノ精神ニ就テ

新比島國ノ建設ニ當リ帝國ノ最モ關心ヲ有スルハ其ノ建國ノ精神トス新比島國ハ完全ナル獨立國タルベク其ノ建國ノ精神ハ固ヨリ比島自體ニ於テ決定スベキモノナリト雖帝國ハ新比島國ガ大東亞共榮圈ノ一環タル道義ニ基ク新國家ニシテ世界新秩序ノ創造ニ寄與スルモノタルベキヲ確信ス

第二　國家ノ構成ニ就テ

新比島國ノ領域ハ舊米領全比島ナルコトヲ玆ニ明言ス

尙帝國トシテハ政治機構及之ガ運用ヲ努メテ强力簡素ナラシムルコトヲ適當ナリト思考シアリ

第三　日比基本關係ニ就テ

帝國ハ新比島國ガ其ノ創意ト責任トニ於テ速ニ獨立國ノ實ヲ具フルコトヲ冀念シ全幅ノ支援ヲ爲スベシ新比島國亦大東亞共榮圈ノ一環トシテ政治、軍事、外交、經濟等ノ各般ニ於テ將來ニ亙リ帝國ト密ニ提携協力スベキコトヲ期待ス

第四　戰爭協力ニ就テ

帝國ハ新比島國ガ成ルベク速ナル時機ニ於テ帝國ト緊密ナル協同ノ下ニ比島防衛ノ完璧ヲ期スル爲米英兩國ニ對シ宣戰スルニ至ランコトヲ望ムモノナルガ參戰前ト雖速ニ戰時ニ卽應スル各般ノ態勢ヲ整備確立シ以テ帝國ト緊密一體戰爭完遂ニ邁進センコトヲ期スルモノナリ

第五　軍事ニ就テ

大東亞戰爭完遂ノ爲新比島國ハ軍事上帝國ト完全ニ協力シ帝國軍隊ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與スルト共ニ比島防衛ノ爲比島國軍ノ用兵作戰及比島警察隊ノ軍事行動ニ關シテハ在比帝國陸海軍最高指揮官ノ指揮ニ服セシメンコトヲ望ム

第六　經濟ニ就テ

新比島國ノ經濟ハ大東亞經濟建設ノ一環トシテ其ノ主權ノ下ニ於テ公正潑溂タル活動ニ依リ之ガ振興ヲ期セラレ度帝國ハ之ニ所要ノ援助ヲ與フルノ用意ヲ有ス

而シテ戰爭遂行上及大東亞建設上必要ナルモノニ付テハ十分帝國ノ施策ニ順應スルノ措置ヲ講ゼラレンコトヲ切望ス

惟フニ一國ノ創設ハ容易ノ業ニアラズ況ンヤ前古未曾有ノ大戰爭ノ眞只中ニ於ケル新比島國ノ生成發展ハ蓋シ尋常ナラザルベシト雖比島一千八百萬全民衆ノ燃ユルガ如キ愛國ノ熱意ハ必ズヤ之ヲ玉成スベキヲ確信スルモノナリ

新比島國ノ柱石タルベキ貴下等ハ宜シク帝國ノ意圖スル所ヲ體シ有ユル障碍ヲ克服シ以テ建國ノ偉業ヲ完成シ相携ヘテ大東亞戰爭ヲ完遂シ以テ道義ニ基ク大東亞ノ新秩序建設ニ邁進セラレンコトヲ切望シテ已マズ

附屬第七

八、日本國「フイリピン」國間同盟條約案

（昭和十八年十月五日大本營政府連絡會議諒解）

大日本帝國天皇陛下及「フイリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フイリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認シタルニ因リ

兩國ハ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

「フイリピン」共和國大統領

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條　締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條　締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條　締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條　本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條　本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條　本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ「　　」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和　　年　　月　　日卽チ　　年　　月　　日「　　」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

日本國「フイリピン」國間同盟條約附屬了解事項

條約第二條ニ付

本條約ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ緊密ナル軍事上ノ協力ノ主タル態樣ハ左ノ通トス

「フイリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フイリピン」國ハ「フイリピン」國ノ防衞ニ付相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和　　年　　月　　日卽チ　　年　　月　　日「　　」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

附屬第八

九、日本國「フイリピン」國間同盟條約

大日本帝國天皇陛下及「フイリピン」共和國大統領ハ

日本國ガ「フイリピン」國ヲ獨立國家トシテ承認スルコトニ決シタルニ因リ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ確乎不動ノ決意ヲ以テ之ガ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除センコトヲ欲シ之ガ爲同盟條約ヲ締結スルコトニ決シ

左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

特命全權大使從三位村田省藏

「フイリピン」共和國大統領

國務大臣「クラーロ、エメ、レクト」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國間ニハ相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎ニ於テ永久ニ善隣友好ノ關係アルベシ

第二條

締約國ハ大東亞戰爭完遂ノ爲政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

締約國ハ大東亞ノ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ締約國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

本條約ハ締約國ニ於テ其ノ批准ヲ了シタル日ヨリ實施セラルベシ

第六條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ批准書ノ交換ハ「マニラ」ニ於テ成ルベク速ニ行ハルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

昭和十八年十月十四日卽チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

村田省藏（印）

クラーロ、エメ、レクト（印）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ帝國全權委員ガ「フイリピン」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「フイリピン」國間同盟條約ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百三年昭和十八年十月二十日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣　重光　葵

日本國「フイリピン」國間同盟條約附屬了解事項

條約第二條ニ付

同條ニ規定スル大東亞戰爭完遂ノ爲ノ軍事上ノ緊密ナル協力ノ主タル態樣ハ左ノ通トス

「フイリピン」國ハ日本國ノ爲スベキ軍事行動ノ爲一切ノ便宜ヲ供與スベク又日本國及「フイリピン」國ハ「フイリピン」國ノ領土及獨立ヲ防衛スル爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本了解事項ニ署名セリ

昭和十八年十月十四日即チ千九百四十三年十月十四日「マニラ」ニ於テ本書二通ヲ作成ス

村　田　省　藏

クラーロ、エメ、レクト

批准及效力發生期日ニ關スル外務省告示

昭和十八年十月十四日「マニラ」ニ於テ署名調印セラレタル日本國「フイリピン」國間同盟條約ハ兩國ニ於テ十月二十日其ノ批准ヲ了シタリ從テ本條約ハ其ノ第五條ノ規定ニ基キ同日ヨリ效力ヲ發生セリ

昭和十八年十月二十一日

外務大臣　重光　葵